

Canon EOS 630

使用説明書 日本語版



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

EOS 630は最新の電子技術を総集し、「人にやさしい」を開発コンセプトとして誕生した、親切設計のオールマイティー**AF・AE**（Auto Focus: 自動ピント合わせ・Auto Exposure: 自動露出）一眼レフカメラです。初めて一眼レフカメラを手にする方からベテランの方まで、幅広いユーザーの方々に**EOS**写真をお楽しみいただけます。

★使用説明書の構成

この使用説明書は六つに分かれています。第一部から第三部までは基本的な写真の撮り方を説明しています。第四部以降では、さらに**EOS**のもつ機能を活かした撮影方法を説明しています。

- 第一部中の「フィルムを入れます」の項目までお読みいただければ、後の項目はおお客様の知識・経験に合わせて、どの項目からお読みいただいても結構です。
- クオーツデートバックEの使用法については、添付の使用説明書をご覧ください。

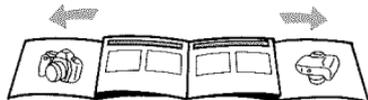
EOSは、完全電子化マウントにより、専用のキヤノンEFレンズとの間でピント・露出調節のための情報交換を行なっています。他社製のレンズを**EOS**に使用すると、カメラまたはレンズが正常機能を発揮しないことがありますのでご注意ください。また、他社製品との組み合わせ使用に起因する事故、故障等につきましては保証いたしかねます。

★EOS 630の特長

- 1) モーター内蔵の専用**EF**レンズ、新開発測距センサー-BASIS（Base-Store Image Sensor）、ハイスピードマイクロコンピュータのコンビネーション：
「より素速く、より正確にピントを合わせます。」
- 2) **AI**（Artificial Intelligence: 人工知能）サーボの動物予測機能：
「高速で**EOS**に近づく、または遠ざかるものも正確に写し止めます。」
- 3) 内蔵モータードライブ：
「1秒間最高約5枚の連続撮影が可能です。」
- 4) 評価測光システム：
「様々な条件の光の中でもカメラまかせできれいな写真が撮れます。」
- 5) 7つのイメージセレクト機能：
「簡単操作でイメージ通りの写真が撮れます。」
- 6) 7つのカスタム機能：
「あなた好みの**EOS**にチューンナップすることができます。」

EOSの素晴らしい先進機能はまだたくさんあります。この使用説明書をよくお読みになり、**EOS**の全機能を引き出して思うままにシャッターを切ってください。経験の積み重ねが名カメラマンを生みます。素晴らしい**EOS**写真の世界があなたを待っています。

表紙と裏表紙の各部名称を図のように開いてご覧ください。各部名称についている番号は本文中の番号と対照できるようになっていますので、操作箇所がすぐにおわかりいただけます。



各部名称

緑字：押しながら電子ダイヤルを回して機能をセットします。

① 表示パネル

② 電子ダイヤル

他のボタンとの組み合わせで機能の切り換えとシャッター速度や絞り数字などのセットを行います。

③ シャッターボタン

二段スイッチになっています。一段目でピントと露出が決まり、二段目でシャッターが切れます。

④ グリップ/電池室蓋

⑤ セルフタイマー表示ランプ

⑥ 距離目盛

⑩ 手動フォーカスリング



⑨ アクセサリーシュー

⑪ メインスイッチ

- L スイッチオフ
- A スイッチオン (電子音なし)
- (L-A) スイッチオン (電子音あり)
- O スイッチオン (電子音あり)

⑦ フィルム位置マーク

⑧ 露出補正ボタン

⑫ 撮影モード選択ボタン

④ ストラップ通し

⑬ 裏蓋ロック解除ボタン

⑭ 裏蓋開放レバー

① レンズ取り外しボタン

⑨ フォーカスモードスイッチ

ピント合わせの自動/手動を切り換えます。

⑧ 被写界深度確認ボタン

⑦ 手動絞りセットボタン

目次

I 「すぐに写真を撮りたい方へ」	5	③絞り優先AE	41
1. 撮影の準備	6	〔深度の確認〕	42
2. フルオート撮影	15	④深度優先AE	43
撮りたいものが画面の中心にないとき：		〔露出警告一覧表〕	46
「フォーカスロック撮影」	16	IV 「EOS 写真の世界はさらに広がります」	48
「構図やアングルを変えると写真がこんなに変わります」	17	1. 露出補正	49
3. フィルムの自動巻き戻し〔フィルムの途中巻き戻し〕	19	2. オートブラケティング＝自動露出ずらし機構	50
II 「イメージセレクトで気軽にいい写真を撮りましょう」	20	3. 多重露出	53
1. イメージセレクト機能のセット	21	4. 部分測光	55
2. 撮影のヒント		5. マニュアル露出	57
P 2：アクションスナップ	22	6. バルブ（長時間露出）撮影	59
P 3：風景	22	7. フィルム感度の手動セット	61
P 4：スポーツ	23	8. 白黒赤外フィルム撮影	62
P 5：ポートレート	23	9. フラッシュ撮影	63
P 6：クローズアップ（接写）	24	V 「カスタム機能であなただけのEOSに	
P 7：室内パーティー	24	チェーンナップしましょう」	65
★セルフタイマー撮影	25	使用上のご注意	69
★オートフォーカスができないとき〔手動ピント合わせ〕	27	VI 「もっと詳しくEOS 630を知りたい方へ」	72
III 「もっと自由に写真を撮りましょう」	29	1. イメージセレクト組み合わせ一覧表	73
1. 被写体の状況に合わせて決めてください		2. パネル表示一覧	74
AFモードのセット：ワンショット	30	3. ファインダー内表示一覧	75
AIサーボ	30	4. プログラム線図	76
フィルム巻き上げモードのセット：一枚撮り	32	5. プログラムシフト特性	77
連続撮影	32	6. 電池寿命（フィルム給送本数）	78
2. 撮影状況に合わせて決めてください		7. 評価測光特性	78
〔1〕はじめに	33	8. AFモードとフィルム巻き上げモードの関係	79
〔2〕撮影モードのセット	36	9. 交換用フォーカシングスクリーンと視度補正レンズ	80
①インテリジェントプログラムAE	37	主要性能	83
〔プログラムシフト〕	38	ストラップの取り付け方	87
②シャッター優先AE	39	アフターサービスについて	87

I 「すぐに写真を撮りたい方へ」

ここではすぐに写真が撮れる最も簡単な方法を説明いたします。手順に従って準備を行い、EOSに慣れることから始めてください。

保証書について

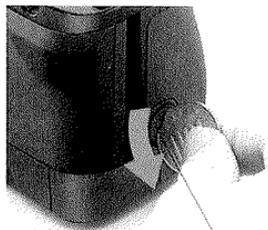
同封されている「ご愛用者カード」をお送りください。キャノンEOSご愛用者として登録させていただくと同時に、本製品の「国際保証書」をお送りいたします。もしご愛用者カードをお手元に置かれますと、万一故障した際、保障期間内の無料修理を受けることができませんのでご注意ください。

「ご愛用者カード」は必要事項をご記入のうえ、ご投函またはご購入店にお渡しください。尚お送りくださる際、販売店名印がない場合は、お手数ながら手書きにて店名、住所（または所在地名）、電話番号をご記入のうえお送りください。

1. 撮影の準備

1) 電池を入れます。

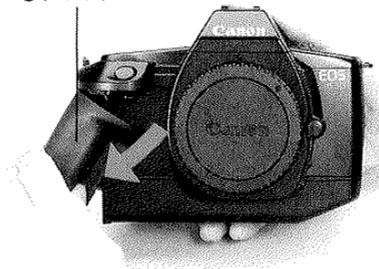
EOSはリチウム電池パック (2CR5, 6V) 1個で作動します。



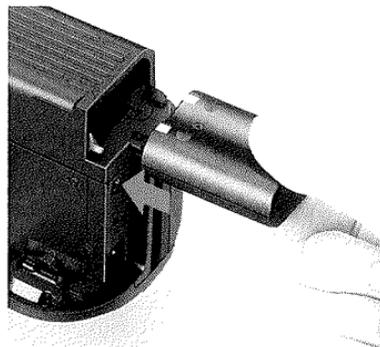
③グリップねじ

1 コインなどを利用して、グリップねじ③を緩めます。

④グリップ

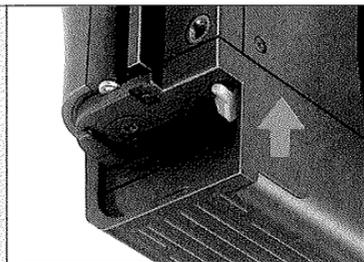


2 グリップ④を矢印方向に回すようにして外します。

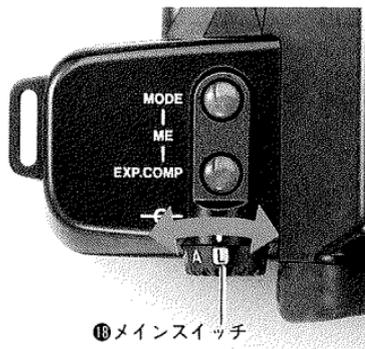


3 写真のように、(+) (-) 接点をカメラの方に向けて電池を入れます。オレンジ色のレバーで電池がロックされるまで十分に押し込み、グリップを確実に取り付けます。グリップねじは確実に締めてください。

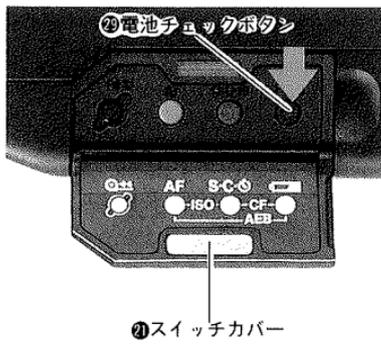
•電池を交換するときは、オレンジ色のレバーを上押しして使用済み電池を取り出してください。また、三脚をお使いのときは、カメラを三脚から外して電池交換をしてください。



2) 電池をチェックします。



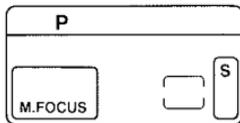
⑬メインスイッチ



⑭スイッチカバー

1 メインスイッチ⑬を回してL以外の位置に合わせます。このとき表示パネルに図のような表示が現れます。(もし表示が出ないときは電池の向きをチェックしてください)

(表示例)

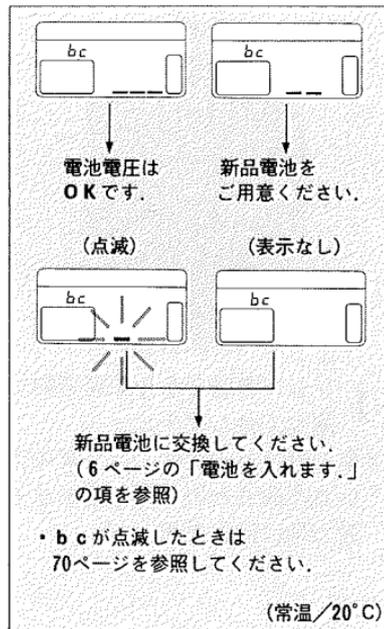


- カメラを使用しないときは、不用意な電池消耗を防ぐため、必ずメインスイッチを“L”にしてください。

2 裏蓋の下にあるスイッチカバー⑭を開きます。

電池チェックボタン⑲ () を押し、表示パネルの電池チェックマークで電池電圧を確認します。

- 撮影前は必ず電池をチェックしてください。
- ご旅行におでかけのときや、たくさん写真を撮られるときは、万一の場合に備えて予備の電池をご用意ください。



3) レンズを取り付けます。



- 1 レンズの底ぶたを矢印方向に回して外します。
 - 取り付けるときは、レンズの赤い点と底ぶたの●印を合わせて逆方向に回します。



- 2 ボディキャップを矢印方向に回して外します。
 - 取り付けるときは、カメラの赤い点とキャップの●印を合わせて逆方向に回します。



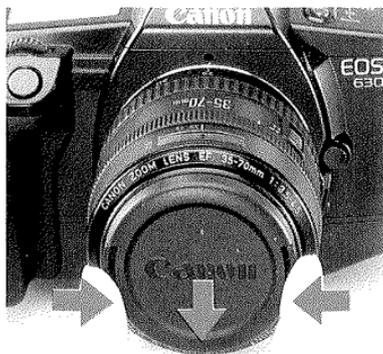
- 3 レンズとカメラ両方の赤い点を合わせ、レンズをはめ込みます。



① レンズ取り外しボタン

4 レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。

- レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン①を押しながら逆方向に回します。



5 レンズキャップを外します。



⑨ フォーカスマードスイッチ

6 フォーカスマードスイッチ⑨をAFにセットします。



- レンズとカメラ本体○印(左写真)の電子接点に汚れ、傷、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因となることがありますのでご注意ください。
- レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

4) カメラの構え方を身につけます。

撮影のときカメラが動くことを「手振れ」と呼びます。手振れ写真はいわゆるピンボケとは違い、全体がボケた写真となり、シャープに写っているところがありません。

シャープな写真を撮るために、カメラが動かないように構えてください。



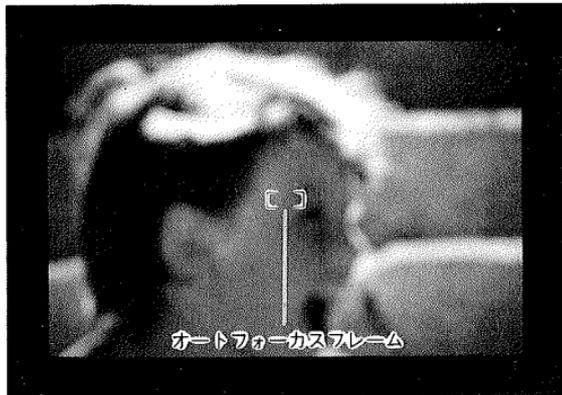
- 1 カメラを持つ手のひじを軽く体に付けます。
- 2 カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 3 両足をそろえずに、片足を軽く踏み出して体を安定させます。

- 構え方に決まった方法はありません。ご自分に合った方法で行ってください。構え方の練習は鏡の前で行うと効果的です。なお、実際に撮影するときは、建物・椅子・テーブル等を支えとするのもひとつの方法です。

5) オートフォーカスでピントを合わせます。

E O Sのシャッターボタン③は二段押しになっています。軽く押すとピントが合い、露出が決まります。この操作を「半押し」といいます。半押しには慣れることが必要です。練習をしてください。半押し状態からさらに深く押すとシャッターが切れます。このとき、手振れを防ぐために右手全体でグリップを握るような感じでゆっくりとシャッターボタンを押してください。

- 指がシャッターボタンから離れている状態から一気にシャッターボタンを押すと手振れになります。ご注意ください。



- 1 シャッターボタンに指の腹を置き、ファインダーをのぞいてオートフォーカスフレームを撮りたいものに合わせます。



2 シャッターボタンを半押しして撮りたいものにピントを合わせます。ピントが合うとファインダー内右下の緑合焦ランプが点灯します。

• 緑合焦ランプが点滅するときは、27ページをご参照ください。

3 半押し状態からさらに深く押し込んでシャッターを切ります。ここまでの操作を何回か繰り返し練習しましょう。

人にやさしいEOS(1)

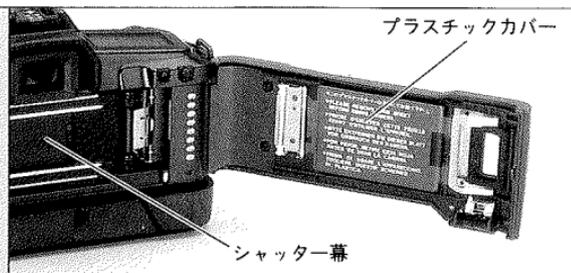
お知らせ電子音

メインスイッチが \square か (\odot) にセットされているとき、EOSは二通りの電子音で次のことをお知らせします。

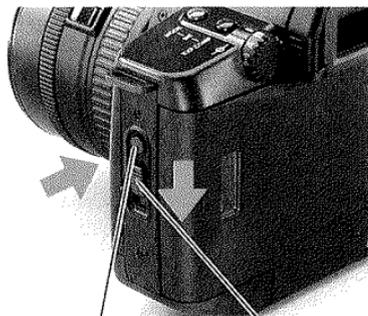
- 1) ピピッ！（短い電子音）：ピントが合いました。そのまま撮影してください。
- 2) ピピピピピッ！（断続電子音）：手振れに注意して撮影してください。（詳細は76ページをご参照ください）。構え方とシャッターボタンの押し方に注意して撮影してください。

6) フィルムを入れます。

- 初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れる前に、裏蓋の内側についているプラスチックカバーを外して捨ててください。
- シャッター幕は非常に高い精度を必要とするため、絶対に手で触れないでください。また、フィルムを入れる際にも、フィルムの引き出し部分がシャッター幕に触れないようご注意ください。



DXマーク付きフィルムをご使用になれば、フィルム感度は自動的にセットされます。また、DXマーク付きフィルムの手動感度セットも可能です。(61ページ参照)

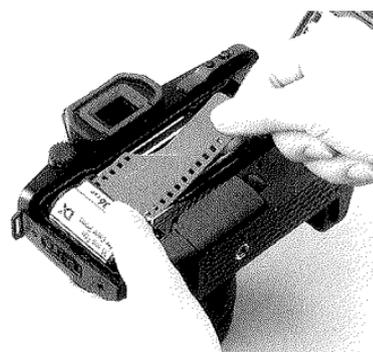


①裏蓋ロック解除ボタン ②裏蓋開放レバー

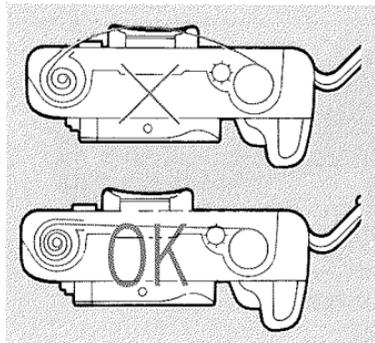
1 裏蓋ロック解除ボタン①を押し、そのまま裏蓋解放レバー②を押し下げると裏蓋が開きます。



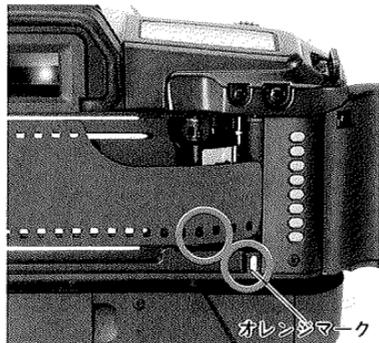
2 写真のように、フィルムは先端を斜めに入れていきます。表示パネルにフィルム確認マーク(ⓐ)が出ます。



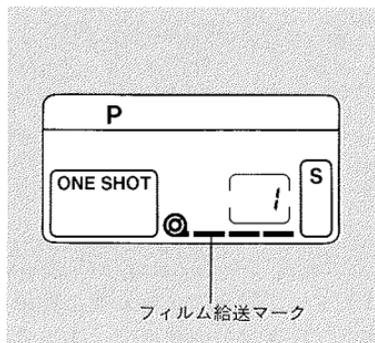
3 カメラを倒さないように、左手でカメラとパトローネ(フィルムの容器)を押さえながら右手でフィルムを引き出します。



4 フィルムがたるまないようにして、フィルムの先端をオレンジマークに合わせます。フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネ（フィルムの容器）に少し巻き戻し、オレンジマークの位置に合うように長さを調節してください。



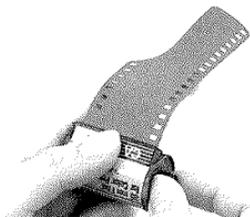
5 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることと、フィルムの穴がカメラの歯車に合っていることを確認し、裏蓋を閉じます。



6 裏蓋を閉じると、EOSが自動的にフィルムを巻き上げ1枚目をセットします。このとき表示パネルに“1”とフィルム給送マークが出ます。

- フィルムが正しく送られていない場合は、フィルム給送マーク全体が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れなおしてください。

•湿度の高い場所では、フィルムはカメラに入れる直前にパッケージから取り出してください。高湿度下に放置したフィルムを入れると、フィルム切れなどを起こすことがあります。



2. フルオート撮影

フルオートモードは、気軽に撮影していただくためのものです。メインスイッチをひとひねりするだけの簡単操作でセットできます。



- 1 カメラのメインスイッチ(1)を
□にあわせます。



- 2 オートフォーカスフレームを
撮りたいものに合わせます。



- 3 シャッターボタンを半押しし
て撮りたいものにピントを合
わせ、さらにシャッターを深く押
して撮影します。

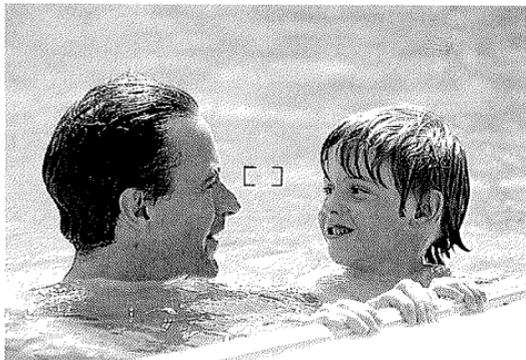
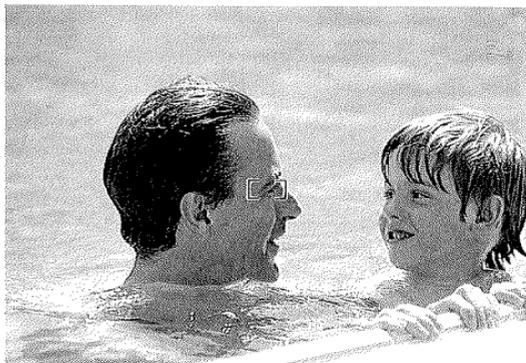
- メインスイッチを □ に合わせたとときに表示パネル上で“P”が点滅しているときは、撮影モード選択ボタン(1)を押しながら電子ダイヤル(2)を左に回して点滅を止めてください。“P”と“1”が表示されると、点滅は止まります。(21ページ参照)。
- 緑合焦ランプが点滅するとき、27ページをご参照ください。

撮りたいものが画面の中央にないとき：「フォーカスロック撮影」

撮りたいものが画面の中央にないときは、以下の手順で撮影してください。（例：二人の並んだ人物を撮影するとき）

1 オートフォーカスフレームをどちらかの人物に合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図にもどして、そのままシャッターボタンを押して撮影します。このようにピントを固定し、構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。



「構図やアングルを変えるとこんなに写真が変わります」

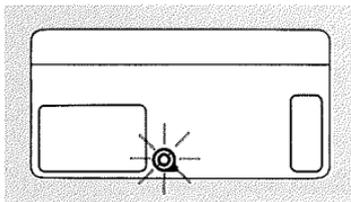
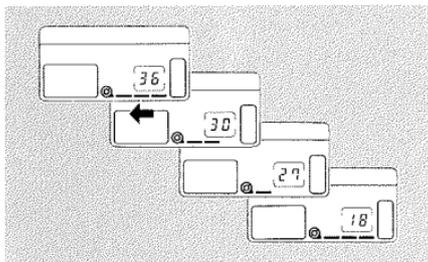
自分の目の高さで構えるだけでなく、撮る位置（カメラポジション）、角度（カメラアングル）、カメラの構え方のタテ・ヨコ（フレーミング）を変えて撮ってみましょう。写真のイメージがかなり変わってきます。このテクニックはあらゆる撮影に応用することができます。





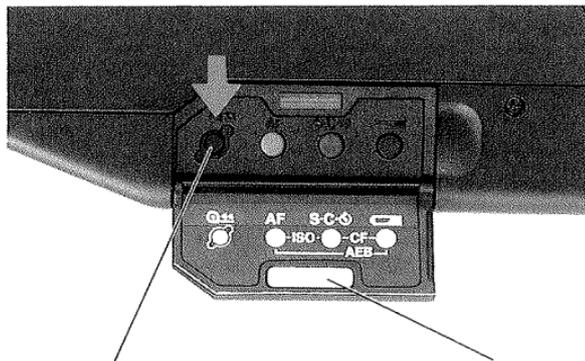
3. フィルムの自動巻き戻し

EOSは撮影が終ると、自動的にフィルムを巻き戻します。早目に取り出して現像に出しましょう。自動巻き戻し中は表示パネル中のフィルム給送マークが右から左へ動いて巻き戻し中であることを表示します。またフィルム枚数計も逆算します。



巻き戻しは完了すると自動的に止まり、表示パネルのフィルム確認マーク (●) が点滅します。

〔フィルムの途中巻き戻し〕



① 途中巻き戻しボタン

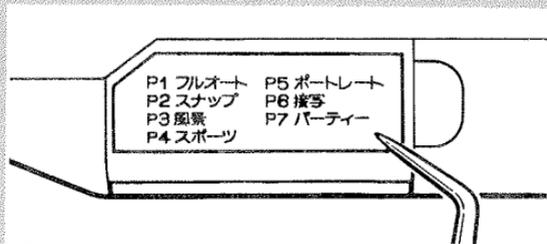
② スイッチカバー

- フィルムを撮り終えるまえに現像に出したい方は、メインスイッチをL以外の位置に合わせ、裏蓋のスイッチカバー②を開けて途中巻き戻しボタン①を押してください。

Ⅱ 「イメージセレクトで 気軽にいい写真を撮りましょう」

イメージセレクト機能とは、簡単な操作でEOSの持つさまざまな特長を活かした撮影をお楽しみいただける機能です。

添付の5ヶ国語のシールの内、必要なものを図のようにスイッチカバーに貼ってご使用ください。



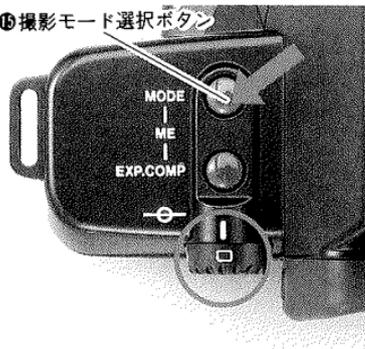
- P 1：フルオートについては15ページから18ページをご参照ください。

EOSの基本操作はボタンを押すことと電子ダイヤル②を回すことの組み合わせです。このことをまず頭に入れてください。

1) イメージセレクト機能のセット

次の手順で希望するイメージをセットしてください。

① 撮影モード選択ボタン



1 メインスイッチが  に合っていることを確認し、撮影モード選択ボタン①を押しながら電子ダイヤル②を回します。

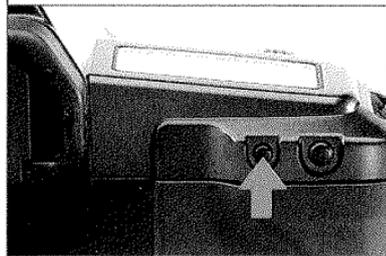
② 電子ダイヤル



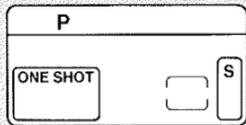
2 各モードを表す数字がフィルム枚数計に表示されます。電子ダイヤル②を回すごとに数字は増えていきます。希望するイメージの数字を選びます。

人にやさしいEOS②

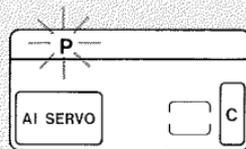
表示パネルの照明
暗くて表示が見にくいときのためにパネルを照明することができます。表示パネル照明ボタン④を一度押せば約6秒間照明されます。



•セット後、撮影モード選択ボタン①を離すとイメージの番号は表示パネル上から消えます。確認するときは、再度撮影モード選択ボタン①を押してください。P1・フルオート以外のイメージをセットすると、表示パネルのPマークが点滅します。



P1：フルオート

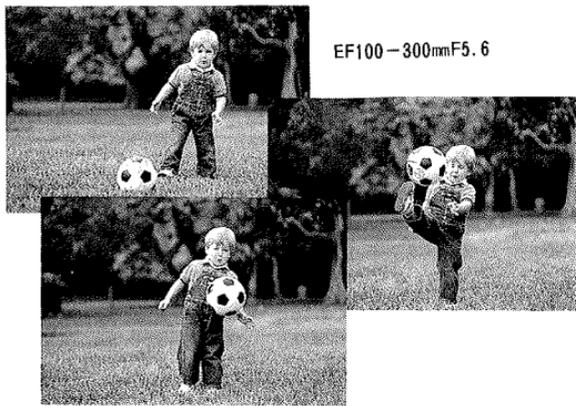


P4：スポーツ

2) 撮影のヒント

P 2 : アクションスナップ

シャッターボタンを半押しにしたまま、撮りたいものの動きを追いつけてください。EOSがピントを合わせ続けます。また、シャッターボタンを押し続ければ連続撮影ができます。動いているものを追いかけるながら、ファインダーから目を離さずに思うままにシャッターを切ってください。



P 3 : 風景

近景から遠景までを鮮明に写すためのモードです。広角レンズを使用すれば手前から遠景までの奥行き感に加えて、横の広がりも表現できます。

- イメージセレクトではEOSの持つ様々な特長の組み合わせが自動的にセットされています。組み合わせの内容については73ページをご参照ください。



EF28-70mmF3.5-4.5II

P 4 : スポーツ

ほとんどのスポーツは近寄って撮ることができません。望遠系のレンズをご使用ください。ズームレンズをお持ちの方は望遠側をご使用ください。シャッターボタンを半押ししたままファインダーから目を離さずに撮りたいものを追いつけてください。

EOSがピントを合わせ続けます。シャッターボタンを押し続ければ連続撮影ができます。連続写真で躍動感を表現してみましょう。



EF70-210mmF3.5-4.5



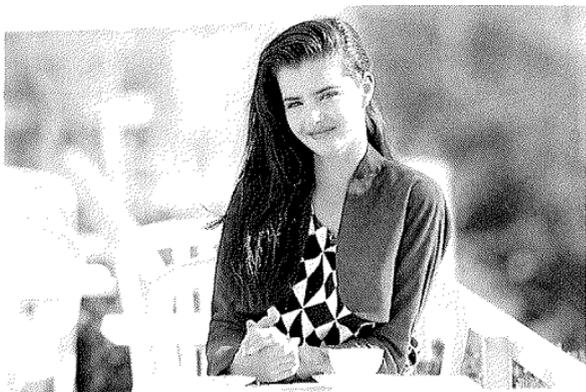
P 5 : ポートレート

人物を背景から浮き立たせるためのモードです。背景をより効果的にボカすために、望遠系のレンズをご使用ください。ズームレンズをお持ちの方は望遠端をご使用ください(28-70mmならば70mm, 35-135mmならば135mm)。

撮りたい人物の胸から上が画面一杯に入るまでできるだけ人物に近寄って、背景は人物から遠去けましょう。

ピントは、人物の目に合わせましょう。

シャッターボタンを押し続ければ連続撮影となります。お気に入りの一枚をお選びください。

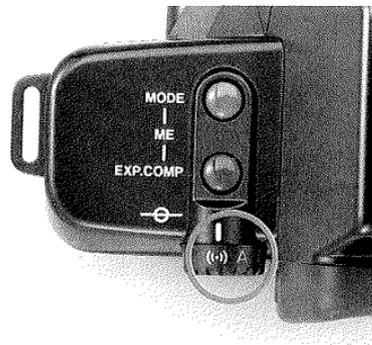


EF300mmF2.8L

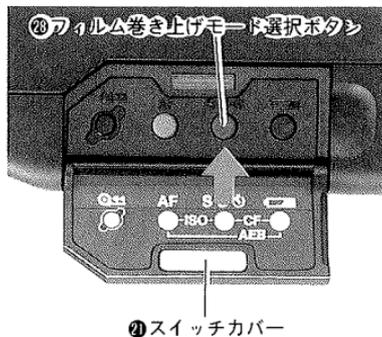
★セルフタイマー

ご自身の記念写真を撮るときは、セルフタイマーをご利用ください。

●三脚などを利用してカメラを固定してください。撮影は約10秒後に行われます。



1 メインスイッチ⑱をAまたは(ON)に合わせます。

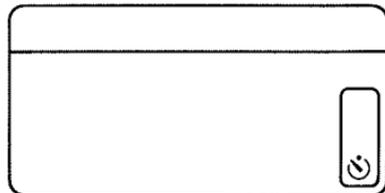


2 カメラの裏蓋の下のスイッチカバー⑳を開き、フィルム巻き上げモード選択ボタン㉔(青)を押します。

- セルフタイマー撮影を中止したいときは、電池チェックボタン㉑を押してください。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。



3 電子ダイヤル㉒を回し、セルフタイマーを表す☺をセレクトします。



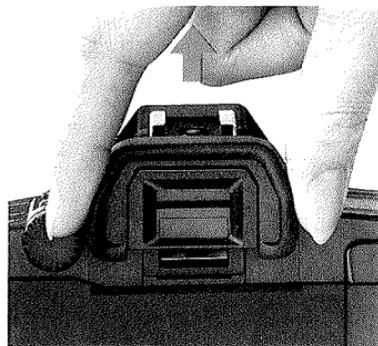
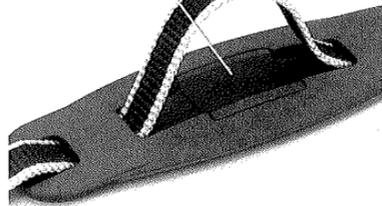
⑤セルフタイマー表示ランプ



4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、そのままさらに深く押します。セルフタイマー表示ランプ⑤が点滅を始め、撮影は約10秒後に行われます。なお、撮影2秒前になると点滅が速くなります。また、表示パネル上に撮影までの残り時間が表示されて行きます。

- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。このようなときはアイカップを外し、ストラップ肩当てからファインダーカバーを外して図のように接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください。

ファインダーカバー



★オートフォーカスができないとき：(手動ピント合わせ)

次のようなものにはピントが合わないことがあります。その場合、ファインダー内の緑合焦ランプが点滅します。

コントラスト(明暗差)が極端に低いもの：白い壁や皿など (A)

極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強いもの：炎天下の車のボディなど

非常に暗いとき：夜間の人物など (B)

横の線しかないもの：ブラインドなど (C)

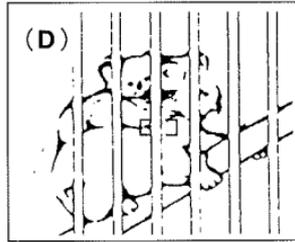
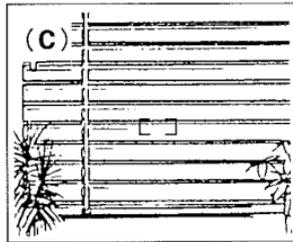
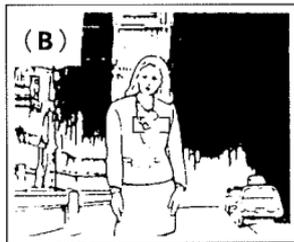
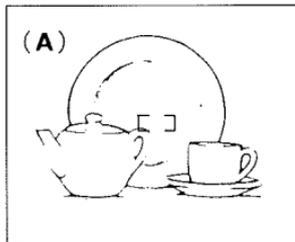
遠くと近くに共存するもの：おりの中の動物など (D)

高速で移動するもの

(A)の場合：撮りたいものとほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックをした後、構図をもとにもどして撮影してください。

(C)の場合：カメラを縦に構えてピントを合わせた後、構図をもとにもどしてしてください。

他の場合は次ページの手順で手動ピント合わせを行ってください。

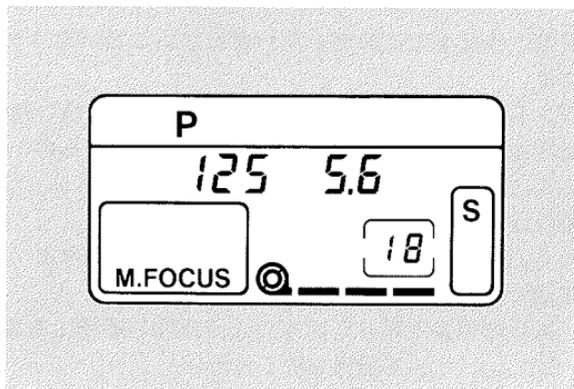


[手動ピント合わせ]



1 レンズのフォーカスモードスイッチ⑨をM（マニュアル：手動）にセットします。

- このとき表示パネルのAFモード表示も、M.FOCUS（手動ピント合わせ）に切り換わります。



2 レンズの手動フォーカスリング⑩を回して、ピントを合わせます。ぼけがなくなり、撮りたいものがはっきり見えればピントの合った状態です。

Ⅲ 「もっと自由に写真を撮りましょう」

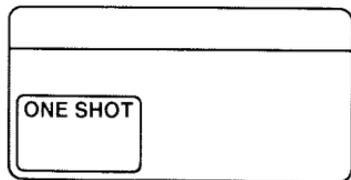
さまざまな機能の自由な組み合わせこそがEOSの最大の特長です。メインスイッチを **A** または (M) に合わせ、あなたの思い通りの写真を自由に撮ってください。

- この項目中の機能は、メインスイッチが **□** マークのときはご使用になりません。

1. 被写体の状況に合わせて決めてください

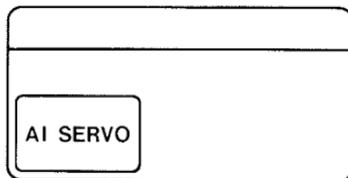
1) AF (Auto Focus:オートフォーカス) モードのセット

EOSには二種類のAFモードがあります。被写体(=撮りたいもの)の状況に合わせてお選びください。



● ONE SHOT (ワンショット)

撮影距離が変わらない被写体を撮るときにセットしてください。ピントが合うまでシャッターが切れませんので、ピンボケ写真を防ぐことができます。露出はピントが合ったときに決まります。また、一度ピントを合わせた後、シャッターボタンを半押しし続ければピントと露出を固定したフォーカスロック撮影ができます。



● AI SERVO (エーアイサーボ)

撮影距離がたえず変わる被写体を撮るときにセットしてください。シャッターボタンを半押しし続けると、動いている被写体にピントを合わせ続けます。従ってフォーカスロック撮影はできません。また、動体予測機能*により、EOSに向かって近付いて来る被写体、あるいは遠ざかる被写体にもピントを合わせ続けることができます。露出はシャッターが切れる直前に決まります。緑合焦ランプは点灯しません。また、電子音は鳴りません。

*動体予測機能

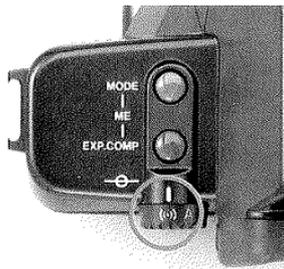
被写体がEOSに近付いてくる場合、または遠ざかる場合、シャッターが切れる直前の被写体の位置をEOSが予測してピントを調整します。

人にやさしいEOS

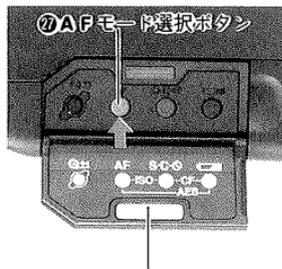
電子ダイヤル

電子ダイヤルには、他のボタンとの組み合わせでテレビのチャンネルのようにEOSの様々な機能を切り換える働きと、数字を大きくしたり小さくする二つの働きがあります。希望する機能や数字に簡単に切り換えることができます。

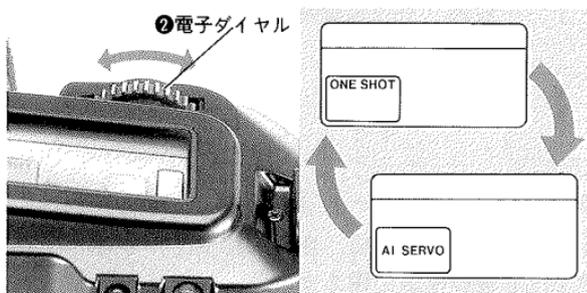
次の手順でAFモードをセットしてください。



1 メインスイッチ⑩をAまたは(∞)に合わせます。



2 カメラの裏蓋の下のスイッチカバー④を開き、AFモード選択ボタン⑦(黄色)を押します。



3 電子ダイヤル②を回し、ONE SHOT、AI SERVOのいずれかをセットします。

- 電子音を解除したい方はメインスイッチをAに合わせてください。
- メインスイッチを□からAまたは(∞)に合わせると撮影モードは自動的にプログラムAEモードにセットされます。(プログラムAEモードについての詳細は37ページをご参照ください)

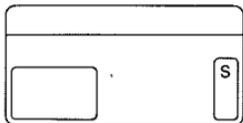
人にやさしいEOS4

6秒タイマー機能①

スイッチカバー内の三つのボタンには6秒タイマー機能が備わっています。一度ボタンを押した後、指を離してください。6秒以内ならば電子ダイヤルを回すだけの簡単な操作でそれぞれのモードを切り換えることができます。

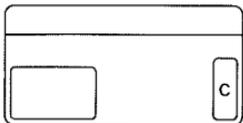
2) フィルム巻き上げモードのセット

E O Sには二種類のフィルム巻き上げモードがあります。一枚撮りか連続撮影かをお選びください。



● S (SINGLE, 一枚撮り) :

シャッターが切れた後、自動的にフィルムを一枚巻き上げて次の撮影に備えます。

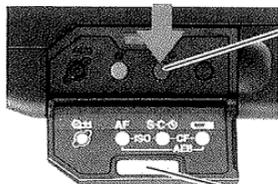


● C (CONTINUOUS, 連続撮影) :

シャッターボタンを押したままにすると連続撮影となります。巻き上げの速さは1秒間に最高約5枚です。(前述の**A I**サーボモードと組み合わせた場合は1秒間に最高約2.5枚です)。

・クォーツデートバック**E**の写し込み機能を使用したときは、巻き上げのスピードが遅くなります。

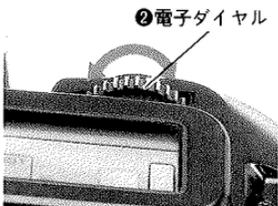
次の手順でフィルム巻き上げモードをセットしてください。



⑳ フィルム巻き上げモード
選択ボタン

㉑ スイッチカバー

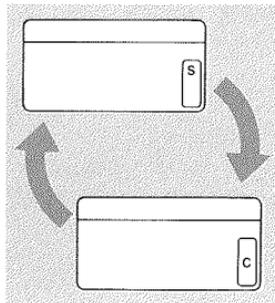
1 カメラの裏蓋の下のスイッチカバー⑳を開き、フィルム巻き上げモード選択ボタン㉑(青)を押します。



㉒ 電子ダイヤル

2 電子ダイヤル㉒を回し、**S**または**C**をセットします。

● ☺ はセフルタイマーです。(詳細は25ページをご参照ください。)



2. 撮影状況に合わせて決めてください

1) はじめに

シャッタースピードと絞りの効果

見たままの明るさに写真が撮れていることを適正露出といいます。これに対して、写真が白っぽくなることを露出オーバー、黒っぽくなることを露出アンダーといいます。

適正露出のためには、フィルムに適量の光をあてなければなりません。この光の量を調節するのがシャッターと絞りです。シャッターは光の当たる時間を、絞りは光の通る入口の広さを調節します。時間をシャッタースピード、入口の広さを絞り数字で表します。同じ撮影状況でも、これらシャッタースピードと絞りの組み合わせは一つではありません。例えばある撮影状況のもと、あるシャッタースピードとある絞り数字で適正露出が得られたとき、シャッタースピードを遅くして光の入る時間を長くしても、その分絞りを閉じて光の通る入口を小さくすればフィルムに当たる光の量は変わらず露出は適正のままです。このようにシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることによって写真を思いのままに変えることができます。(7種のイメージセレクト機能はこの効果を想定して、シャッターと絞りの組み合わせをそれぞれのモードに合わせて自動セットしています)。



露出アンダー



適正露出





速いシャッタースピード



遅いシャッタースピード



閉じた絞り



開いた絞り

被写界深度

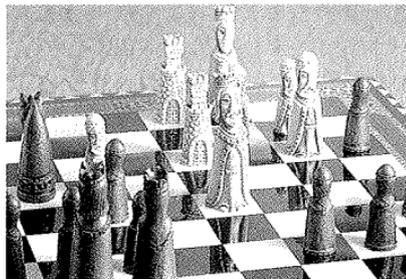
あるものにピントを合わせると、ピントを合わせたものだけでなく、その前後のある一定の範囲もはっきり写ります。このはっきり写る範囲を「被写界深度」といい、カメラと被写体の距離、ご使用のレンズの焦点距離、絞り径の大小で決まります。はっきり写る範囲が広いことを「深度が深い」といい、狭いことを「深度が浅い」といいます。

被写界深度は以下のような性質を持ち、これによって写真のイメージを大きく変えることができます。

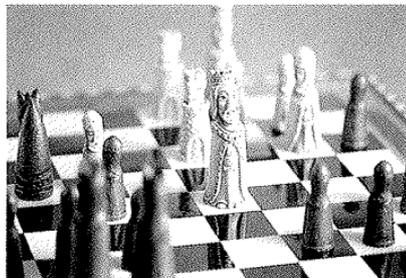
- 1) 絞り数字を大きくすればするほど深度は深くなり、小さくすればするほど浅い。
- 2) 同じ絞り数字でも、広角レンズは深く、望遠レンズは浅い。
- 3) 被写体が離れているほど深い。
- 4) 被写界深度の範囲は、撮りたいものを中心にして手前側が浅く、後側が深い。

EOSには4つのAEモードがあります：

- ①撮影状況や使用レンズに応じてシャッタースピード・絞り数字ともに自動的に決まるインテリジェントプログラムAE (☞37ページ)。
- ②思い通りのシャッタースピードを選べば絞り数字が自動的に決まるシャッター優先AE (☞39ページ)。
- ③思い通りの絞り数字を選べばシャッタースピードが自動的に決まる絞り優先AE (☞41ページ)。
- ④写したい範囲を選べばそのための被写界深度をEOSが自動セットする深度優先AE (☞43ページ)。



F1

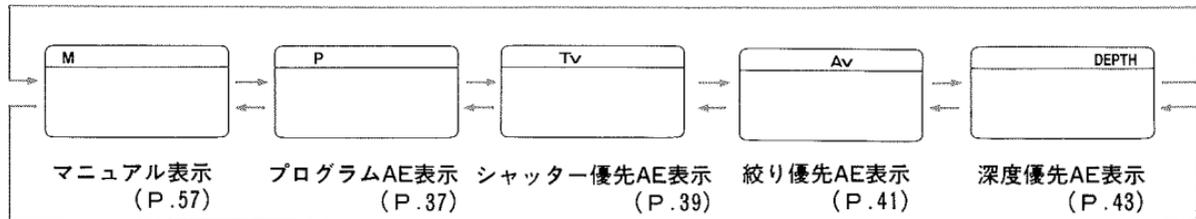
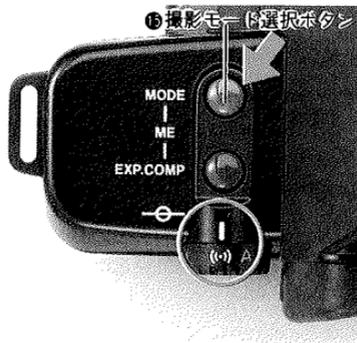


F2

2) 撮影モードのセット

メインスイッチが**A**または**(A)**にセットされていることを確認した後、撮影モード選択ボタン①を押しながら電子ダイヤル②を回します。

下図のように表示が循環します。希望するモードをセットしてください。

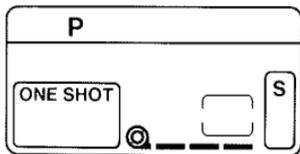


①インテリジェントプログラムAE

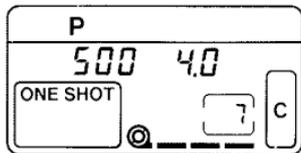
EOSはご使用のレンズの焦点距離に応じて最適なシャッタースピードと絞り数字を選びます。シャッタースピードが1/使用レンズの焦点距離・秒（一般的な手持ち撮影の限界）以下になったときには手振れ警告の電子音を鳴らします。

これをインテリジェントプログラムAEモードと呼びます。このプログラムはP1・フルオート（15ページ参照）と全く同じものですが、さらにAIサーボモードや連続撮影モードとの組み合わせが可能となります。

前ページの手順に従ってプログラムAEモードをセットします。



EF28-70mmF3.5-4.5II

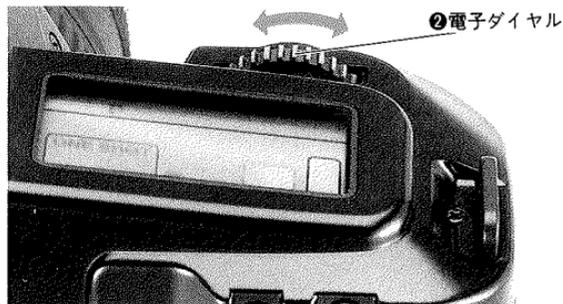


- 露出表示（シャッタースピード・絞り数字）が点滅したときは、46ページの「露出警告一覧表」をご参照ください。

(プログラムシフト)

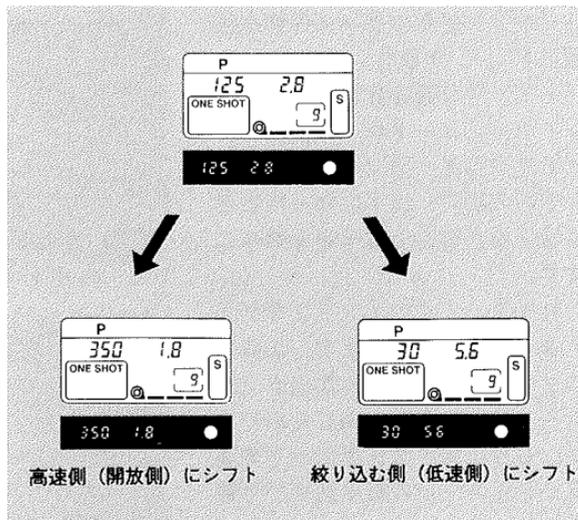
プログラム **A E** によって自動的にセットされたシャッター速度と絞り数字の組み合わせ（プログラム）は、同じ露出のまま自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。

- フルオートモードでのシフトはできません。



希望するシャッター速度または絞り数字が出るまで電子ダイヤル②を回します。

- 撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- フラッシュ撮影時はプログラムシフトはできません。
- プログラムシフト特性に関しては、77ページを参照してください。



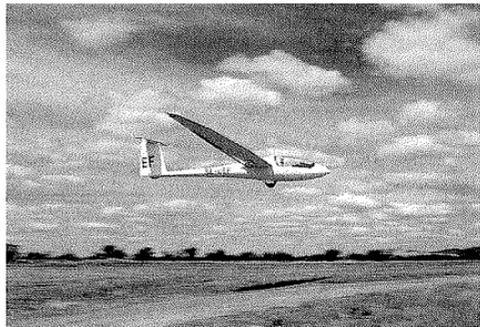
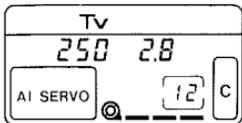
人にやさしいEOS 5

6秒タイマー機能②

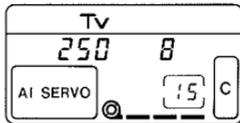
シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、露出表示は約6秒間表示パネル上とファインダー内に残ります。ご確認ください。



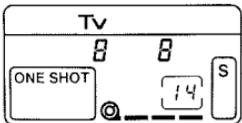
EF300mmF2.8L



EF35-70mmF3.5-4.5



EF35-105mmF3.5-4.5



- 露出表示（絞り数字）が点滅したときは、46ページの（露出警告一覧表）をご参照ください。
- シャッター優先A Eモードでは、メインスイッチが(●)にセットされていても手振れ警告の電子音は鳴りません。

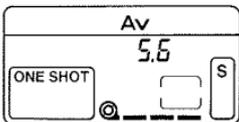
③絞り優先AE

さまざまな絞りの効果を自由にセットして、被写界深度を浅くしたり深くすることができます。

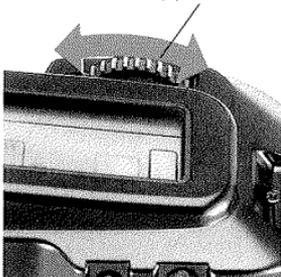
絞りを開放にして（絞り数字を小さくして）背景をぼかした美しいポートレートを撮ることができます。その際、開放絞り数字の小さいレンズをご使用いただくとより効果的です。また、逆に絞り込んで奥行きのある風景などをすみからすみまではっきり写したいときは、絞り数字を大きくしてください。絞り数字をセットすると、適正露出のためのシャッタースピードを撮りたいものの明るさに応じてEOSが自動セットします。



EF600mmF4L



②電子ダイヤル

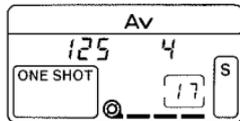


1 36ページの手順に従って絞り優先AEモードをセットします。

2 最初に、5.6 (F5.6)が表示されます。

電子ダイヤル②を回して希望する絞り数字をセットしてください。

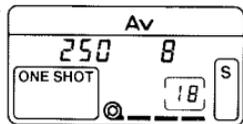
数字が小さくなるほど絞り径は開き、大きくなるほど閉じられます。



(深度の確認)



EF50mmF1.8



- 露出表示 (シャッタースピード) が点滅したときは、46ページの(露出警告一覧表)をご参照ください。



③ 被写界深度確認ボタン

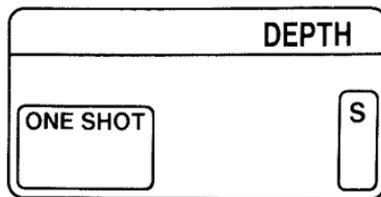
被写界深度確認ボタン③を押すと、カメラが自動的にセットした絞り数字または電子ダイヤル②で手動セットした絞り数字まで絞り込まれます。このままの状態で見finderをのぞいたときに、はっきり見える範囲がその絞りでの被写界深度です。

- メインスイッチが マークにセットされているときは、被写界深度確認ボタンを押し込んでもレンズは絞り込まれません。

④深度優先AE

はっきり写したい範囲を決めると、EOSがそのための被写界深度を自動セットします。風景写真や多人数での記念写真、背景に記念になるようなものを入れて写したいときに便利です。

決められた範囲を深度内に入れるために必要な絞り数字と、シャッタースピードをEOSが自動セットします。



- 1 36ページの手順に従って深度優先AEモードをセットします。

- ストロボは併用できません。
- 深度優先AEモードを操作途中で解除するときは、撮影モード選択ボタンを押してください。
- ズームレンズ使用時は、1点目のピント合わせをした後に焦点距離を変えないでください。
- 1点目、2点目とも同じ距離のものにピント合わせを行なうと、被写界深度は浅くなります。例えば人物でこれを行えば、人物の前景および背景をぼかしたポートレート撮影が可能です。この場合は望遠レンズのご使用をおすすめします。
- 被写界深度を深くとりたいたときは、広角レンズのご使用をおすすめします。また、望遠レンズを使用する場合は焦点距離は200mmが限度とお考えください。
- 深度優先AEモードでは、AFモードがワンショットでも露出はシャッターを切る瞬間に決まります。(30ページ参照)



- 2 オートフォーカスフレームを1点目①に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
ファインダー内の緑合焦ランプが点灯したら、シャッターボタンから指を離します。



- 3 続いて2点目②で2と同じ操作を行います。

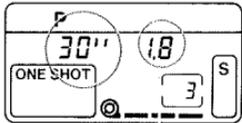
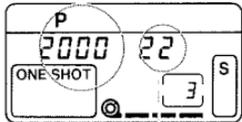
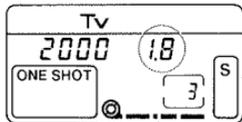
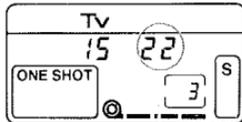


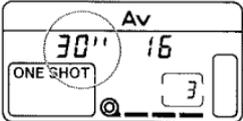
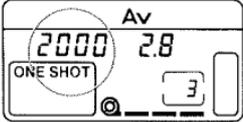
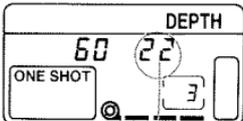
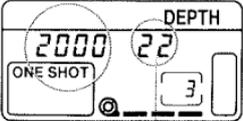
- 操作は⑥(後方), ③(前方)の順で行っても結果は同じです。
- 露出表示(シャッタースピード・絞り数字)が点滅したときは, 次ページの「露出警告一覧表」をご参照ください。

4 構図を決め, シャッターボタンをさらに深く押し
して撮影します。

このとき, ③から⑥つまり前方から後方までを深度
内に入れるために必要な絞り数字とそれに対応した
シャッタースピードがファインダー内で確認できま
す。

(露出警告一覧表)

使用モード	パネル表示警告例 (点滅)	原因	処置
プログラムAEモード	 <p>使用レンズの開放絞り数字</p>	撮りたいものが暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 <p>使用レンズの最小絞り数字</p>	撮りたいものが明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
シャッター優先AEモード	 <p>使用レンズの開放絞り数字</p>	露出アンダーになります。	電子ダイヤルを回してシャッタースピードを遅くしてください。
	 <p>使用レンズの最小絞り数字</p>	露出オーバーになります。	電子ダイヤルを回してシャッタースピードを速くしてください。

使用モード	パネル表示警告例 (点滅)	原因	処 置
絞り優先 A E モード		露出アンダーになります。	電子ダイヤルを回して絞りを開いてください。
		露出オーバーになります。	電子ダイヤルを回して絞りを閉じてください。
深度優先 A E モード	 <p data-bbox="348 622 591 643">使用レンズの最小絞り数字</p>	お望みの被写界深度が得られません。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 撮りたいものからできるだけ離れて再度操作を行なってください。 2) ズームレンズをご使用の場合は、広角側にセットして再度操作を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> • 点滅したままの状態でも撮影しても露出は適正になります。
	 <p data-bbox="348 860 591 881">使用レンズの最小絞り数字</p>	撮りたいものが明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。

IV 「EOS写真の世界はさらに広がります」

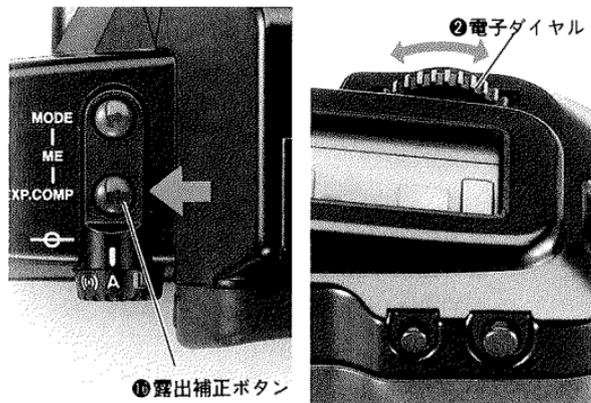
プロカメラマンになったつもりでさらに一味違った写真に挑戦してください。

- この項目中の機能はメインスイッチが マークのときはご使用になれません。

1. 露出補正

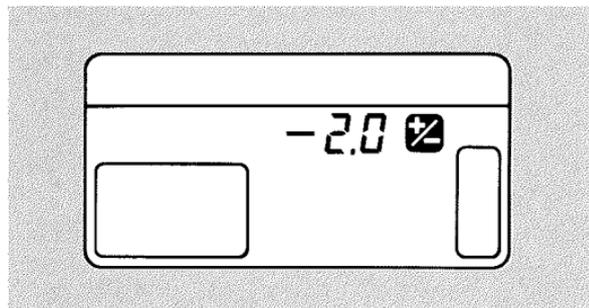
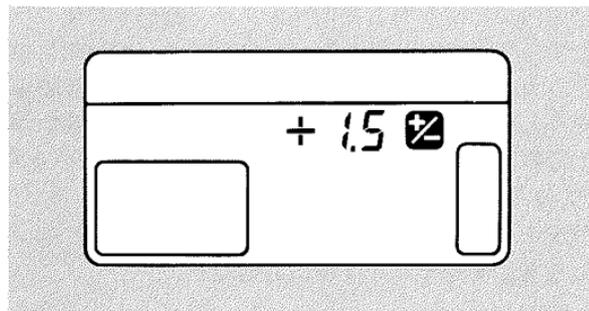
写真の画面全体を意識的に露出オーバー（ハイキー調）にしたり，露出アンダー（ローキー調）にするときなどに使用します。補正範囲は+5.0～-5.0段で1/2段ずつセットできます。

次の手順に従って希望する露出補正量をセットしてください。



1 露出補正ボタン①を押しながら電子ダイヤル②を回し，希望する補正量をセットします。

- +はオーバー側への補正，-はアンダー側への補正です。
- 露出補正は撮影モード，測光モードにかかわらず使用できます。（ただし，メインスイッチ \square マークを除く。）



2 このとき表示パネルと，ファインダー内に \square が表示され，露出補正状態にあることを示します。

- 補正量を決めにくいときは，前後に補正数値を変えて撮影してください。
- 撮影終了後，露出補正の必要がなくなったときは忘れずに補正量を“0.0”に戻してください。

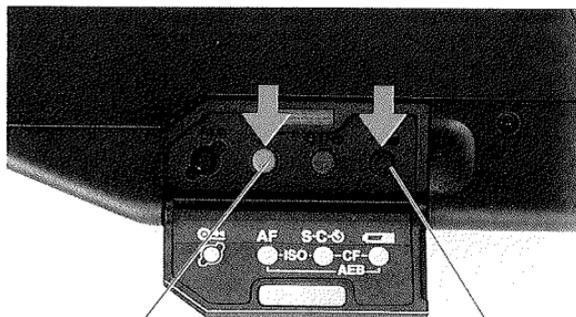
2. オートブラケティング=自動露出ずらし機構

画面内に微妙な明るさの差があり、露出を変えて撮影する余裕のない動く被写体の撮影などに使用します。カメラが自動的に露出をずらして3枚の連続撮影をしますので、後からご自分の判断で最も良い露出の写真を選んでください。補正範囲は+5.0~-5.0で、1/2段ずつセットできます。

ラチユードのせまいりパーサル(スライド)フィルムをご使用のときは特に有効です。

- 3枚の自動連続撮影はフィルムの巻き上げモードに関係なく行われます。またピントはAFモードに関係なく最初の撮影位置でロックされます。
- バルブ(59ページ参照)とフラッシュ撮影(63ページ参照)には併用できません。
- シャッタースピード・絞り数字ともが変わるもの：プログラムAE
- シャッタースピードのみが変わるもの：絞り優先AE、深度優先AE、マニュアル露出(57ページ参照)
- 絞り数字のみが変わるもの：シャッター優先AE
- マニュアル露出と併用するときは、先にマニュアル露出値をセットしてください。

次の手順に従って希望する露出ずらし量をセットしてください。



③スイッチカバー

①AFモード選択ボタン

②電池チェックボタン

1 スwitchカバー③を開き、AFモード選択ボタン①と電池チェックボタン②を同時に押しします。

- このとき表示パネルには“00”、“AEB”が表示されます。



- 1 段

EF50-200mmF3.5-4.5

2 電子ダイヤル②を回し、希望する露出のずらし量をセットします。

例えば1.5をセットすると、EOSは露出アンダー（-1.5段）、適正（±0段）、露出オーバー（+1.5段）の順で3枚自動的に連続撮影します。

- 撮影終了後オートブラケティングが必要なくなったときは、忘れずに1、2の手順に従ってパネル表示を“0.0”に戻してください。



± 0 段



+1 段

[撮影ヒント]

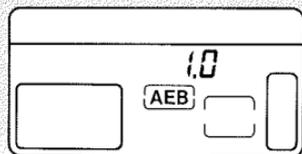
例えば露出オーバー側にのみ露出をずらしたいときは、露出補正機能を併用してください。

(49ページ参照)

1 オートブラケティングで露出のずらし量を1.0にセットします。

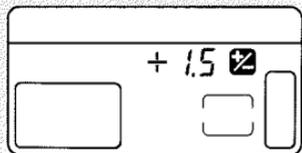
(-1.0, ±0, +1.0)

2 露出補正機能で補正量を+1.5にセットします。結果として露出のずらし量は+0.5, +1.5, +2.5となり、オーバー側にのみ露出をずらしたことになります。



オートブラケティング

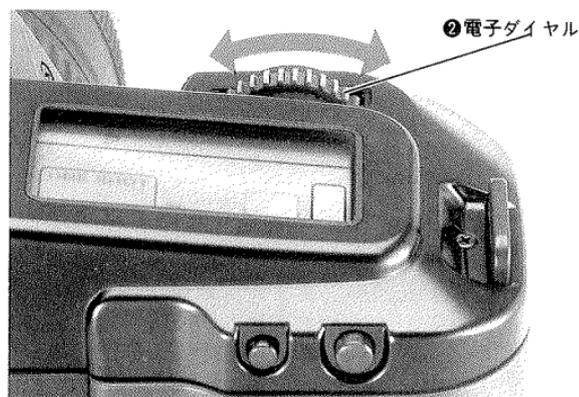
+



露出補正

3. 多重露出

多重露出を使用すれば、同一フィルム面上に画像を重ねて撮影することができます。多重露出回数は1度の電子ダイヤル操作で9回までセットすることができます。



1 撮影モード選択ボタン①と露出補正ボタン②を同時に押します。

- このとき表示パネルには**ME**が表示されます。撮影中は点滅します。

2 両方のボタンを押したまま電子ダイヤル③を回し多重露出回数（3回の多重露出なら3）をフィルム枚数計にセットします。

- 多重露出が終了するとフィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出は解除されます。
- 多重露出を撮影前に解除するときは、1、2の手順に従ってフィルム枚数計を1に戻してください。（撮影途中で解除するときはフィルム枚数計をブランクにします）。

[撮影ヒント]

多重露出はフィルムの同一画面上に何度も露出を与えますので、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正機能を併用してください。(49ページ参照)

多重露出の回数	補正量の目安
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

- この補正量はあくまでも一般的な目安です。実際は条件によって変わりますので、繰り返し練習してみることをおすすめします。



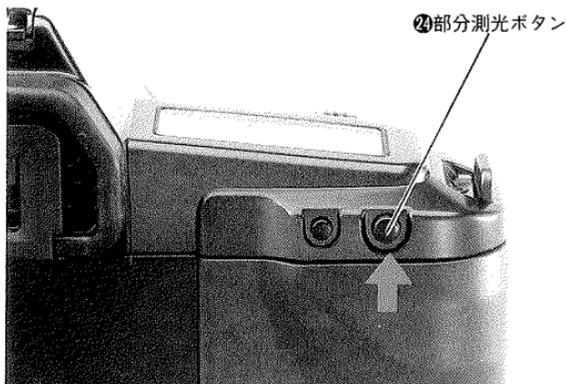
- 多重露出をしてもフィルムは動かないよう考慮されていますが、多重回数が増えた場合は、画面がわずかにずれることがあります。また、フィルムの最初と最後の数コマは巻きぐせがありますので、避けた方が無難です。
- 一般に多重露出は背景が黒っぽいものから撮影し、黒の部分に次の被写体を重ねてゆきます。
- ネガフィルムで多重露出をした場合は、現像（同時プリント）時にその旨をお申し出いただかないとプリントされないことがあります。

4. 部分測光

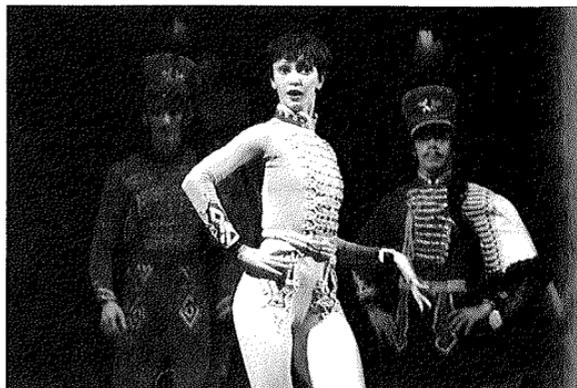
EOSは撮りたいものと背景との明るさの差や、撮りたいものの大きさを考慮して適正露出を決定する評価測光方式を採用しています。逆光のときや晴れた日の雪原などでの撮影でもきれいな写真が撮れます。しかし、スポットライトで照明されたステージなど、被写体と背景とのコントラスト（明暗差）が極端に強いときは、部分測光をご使用ください。



1 部分測光範囲マーク（ファインダー画面の約6.5%）を被写体の中で適正露出にしたい主要部分に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



- 2 シャッターボタンを半押ししたまま、部分測光ボタン④を押します。ファインダー内に部分測光状態を示す * マークが表示されます。 * マークが表示されたならば、部分測光ボタンから指を離してもかまいません。露出はロックされています。
- マニュアル露出モードの場合は手動絞りセットボタン⑦を押しながら部分測光ボタンを押してください。



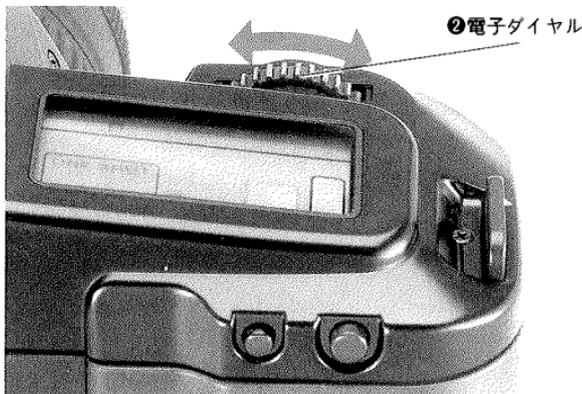
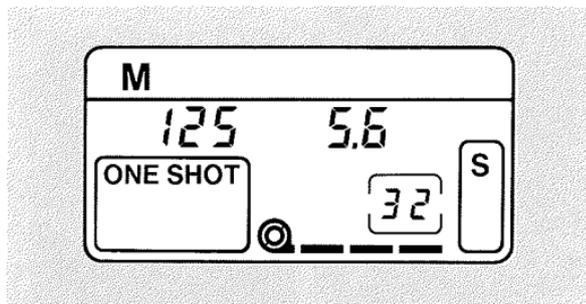
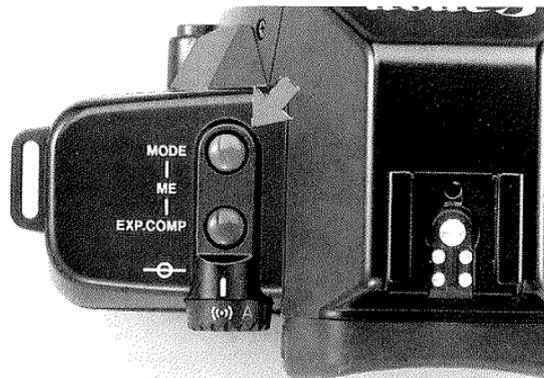
- 3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を自由に決め、さらに深く押し撮影します。
- 撮影後も、シャッターボタンから指を離さずに半押ししたままであれば、露出はロックされます。あらかじめフィルム巻き上げモードをC（連続撮影モード）にセットしておけば、同露出での連続撮影が可能です。（32ページ参照）。

- 意図的に被写体を黒くつぶしたシルエット撮影も可能です。例えば、夕焼けの中の人物をシルエットにするときは、最初に人物にフォーカスロックをした後、構図を変えて夕焼け空を部分測光します。その後、構図をもとに戻して撮影してください。



5. マニュアル露出

シャッター速度と絞り数字を自由に決めて撮影するためのモードです。単独の露出計を用いての撮影や、意識的に露出を変えて撮影するときに使います。

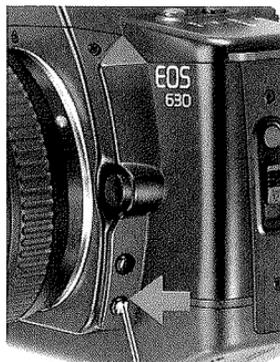


1 36ページの手順に従って、マニュアル露出モードをセットしてください。

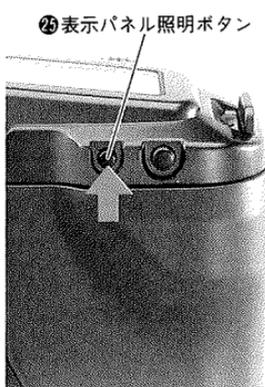
シャッター速度は1/125秒、絞り数字はF5.6が最初に表示されます。

- ・メインスイッチが(●)にセットされていても手振れ警告の電子音は鳴りません。

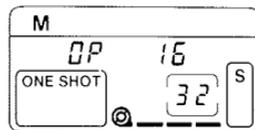
2 電子ダイヤル②を回し、希望するシャッター速度をセットします。



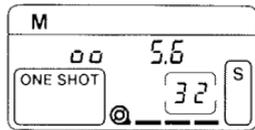
⑦手動絞りセットボタン



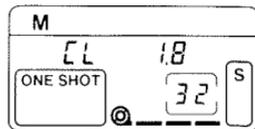
②表示パネル照明ボタン



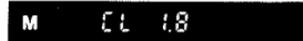
露出アンダーです。絞りを開いてください。(OPENの意味)



適正露出です。



露出オーバーです。絞りを閉じてください。(CLOSEの意味)



3 手動絞りセットボタン⑦または表示パネル照明ボタン②を押しながら電子ダイヤルを回し、希望する絞り数字をセットします。

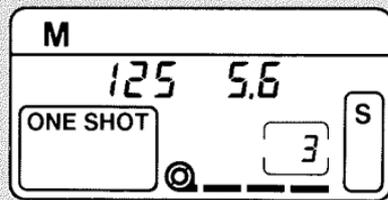
●手動絞りセットボタンを押した場合、表示パネル上とファインダー内のシャッター速度表示は **DP**、**00**、**CL** のいずれかに切り換わります。意味は次の通りです。

- 絞りを開放まで開いても、まだ **DP** が表示されているときは、シャッタースピードを遅くしてください。逆に、最小絞り数字まで絞っても、まだ **CL** が表示されているときは、シャッタースピードを速くしてください。

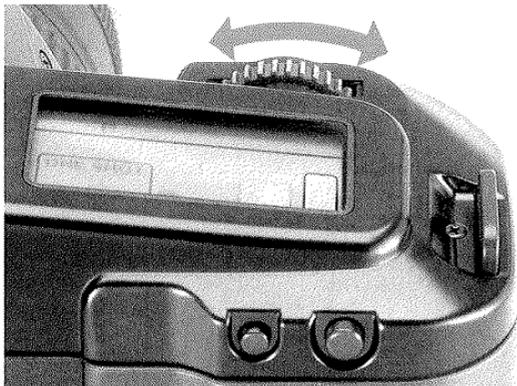
6. バルブ（長時間露出）撮影

シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになりますので、夜景や天体撮影など長時間の露出が必要なときにご使用ください。撮影中にわずかでもカメラが動いてしまうと写真は台なしです。三脚を使用するなどして、必ずカメラをしっかり固定してください。

- 別売りのリモートスイッチ60T3とリモートコントロール端子付きの交換グリップGR-20を併用すれば、シャッターボタンを押し続けなくてもシャッターが開いている状態にロックすることができます。
- メインスイッチが (●) にセットされていても、手振れ警告の電子音は鳴りません。
- バルブ撮影時は、ほとんど電池消費のない省電設計です。



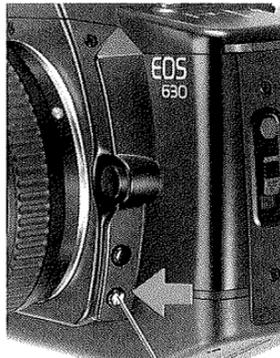
- 1 36ページの手順に従って撮影モードをM（マニュアル露出）にセットします。



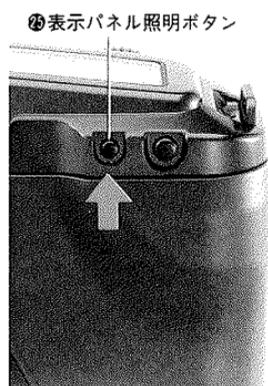
- 2 電子ダイヤル②を左に回して**bulb**(バルブ)をセットします。**30"**の次がバルブです。



シャッター2時間開放・絞り開放 EF50-200mmF3.5-4.5



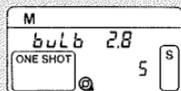
⑦手動絞りセットボタン



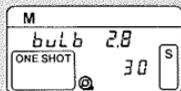
⑧表示パネル照明ボタン

- 3 手動絞りセットボタン⑦または表示パネル照明ボタン⑧を押しながら電子ダイヤル②を回し、希望する絞り数字をセットします。

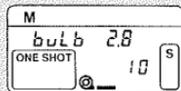
- 120秒まではバルブ作動時間が表示パネル上で確認できます。フィルム給送マーク1本が30秒を表します。



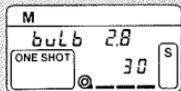
5秒経過



30秒経過



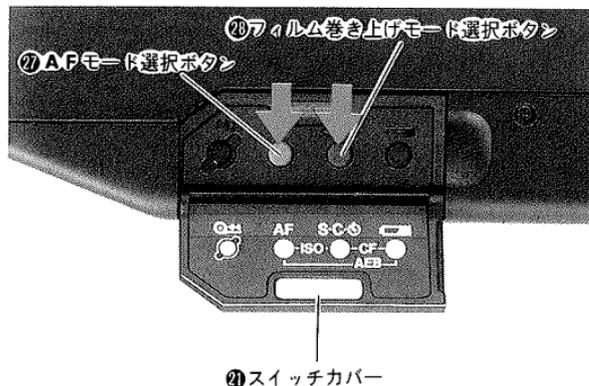
40秒経過



120秒経過

7. フィルム感度の手動セット

D Xマークのないフィルムをご使用になると、ISO数値が点滅して警告します。次の手順に従って感度をご自分でセットしてください。セットできる範囲はISO 6～6400です。



- 1 スイッチカバー②①を開き、黄と青のボタンの両方(②⑦と②⑧)を同時に押して、表示パネルにISOを出します。



- 2 電子ダイヤル②を回して使用フィルムの感度をセットします。

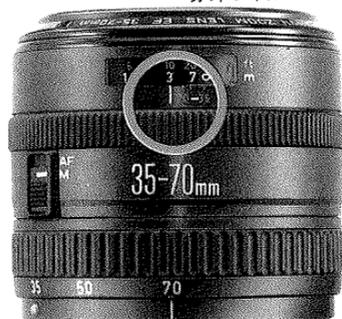
• D Xマーク付きのフィルムの手動感度セットも同じ手順で行うことができます。

8. 白黒赤外フィルム撮影

赤外フィルム撮影では通常の撮影とピント位置が異なりますので次の手順に従って撮影してください。

- 赤外マークは、白黒赤外フィルムを使用するときのマークです。

赤外フィルムマーク



1 **AF**でピントを合わせます。
次にレンズのフォーカスモードスイッチを**M**に切り換えます。

2 ピント合わせの結果が**3 m**ならば、レンズの距離目盛りの**3**を赤外マーク位置にずらして撮影します。ズームレンズをご使用の際は、焦点距離に応じてマークをお選びください。

- 白黒赤外フィルム撮影のときは、赤フィルターを併用してください。
- レンズの赤外マークは800nmの波長を基準に目盛ってあります。
- 詳細は、フィルムの使用説明書に従ってください。

9. フラッシュ撮影

(1) 専用スピードライトによる撮影

専用スピードライト420EZまたは300EZをEOSに取り付ければ、暗い場所だけでなく日中シンクロ*まで、簡単な操作でフラッシュ撮影が可能となります。

*日中シンクロ：

日中の屋外でフラッシュを使う撮影方法です。逆光で人物の顔などが暗くつぶれるのを避けるだけでなく、鮮やかなカラー発色と目にキャッチライトの入った生き生きとした表情の写真が得られます。日中シンクロは経験が必要とする高度な撮影テクニックとされていますが、スピードライト420EZまたは300EZをご使用になれば、すべて自動的に行なうことができます。



300EZ



420EZ



カメラをプログラム **AE** にセットしておけば、フラッシュの充電完了と同時に同調シャッター速度は1/60~1/125秒の範囲内で自動セットされます。さらに調光絞り数字も自動セットされます。

- 詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

(2) その他のキヤノンスピードライト

以下のような手順で撮影してください。調光撮影となります。

- 1) カメラの撮影モードを“**M**”にセットします。
 - 2) 同調シャッター速度を30秒~1/125秒の範囲でセットします。
 - ・1/125秒より速い同調速度をセットした場合は、自動的に1/125秒にセットされます。
 - 3) ストロボに調光絞り数字をセットします。
 - 4) ストロボの調光絞り数字と同じ絞り数字をカメラにセットします。
- **3 0 0 T L** 使用時はストロボのモードセットボタンを **MHi**, **MLo** 以外にセットして撮影してください。 **T T L** 調光が行われます。
 - **2 7 7 T**, **2 9 9 T** のプログラムモードは使用できません。 **F.NO.** セットでお使いください。
 - **2 4 4 T** は使用できません。

(3) 汎用ストロボ

- ① 汎用小型ストロボは1/125秒以下で同調可能。
 - ② スタジオ用大型ストロボは1/60秒以下で同調可能。
- 汎用ストロボをご使用の場合は、ストロボの発光時間との関係で正しく同調するかどうかを、あらかじめ確認してください。

- このカメラにはキヤノンの専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

V 「カスタム機能であなただけのEOS にチューンナップしましょう」

カスタム機能でより使い易いEOSにつくり変えてください。
次の機能の可否をご自由にお選びください。

表示パネルナンバー	機 能
1	フィルムの自動巻き戻し機能
2	フィルムのパトローネ内完全巻き込み機能
3	DXコード付きフィルムの感度自動セット機能
4	ピントと露出の同時決定機能
5	マニュアル露出時：絞り数字セットの電子ダイヤル単独操作
6	手振れ警告電子音機能
7	USMレンズ使用時：AF測距後、フォーカスモード自動切り換えでマニュアルピント合わせ

カスタム機能を利用して、より使い勝手の良いEOSにつくり変えてください。
7種類のカスタム機能があります。

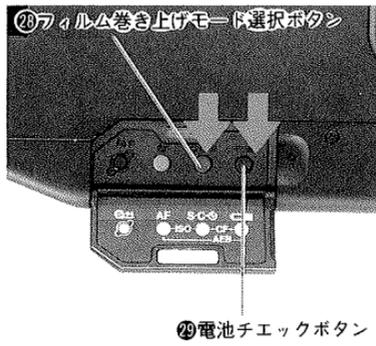
セット方法

次の手順に従って、希望するカスタム機能をセットしてください。



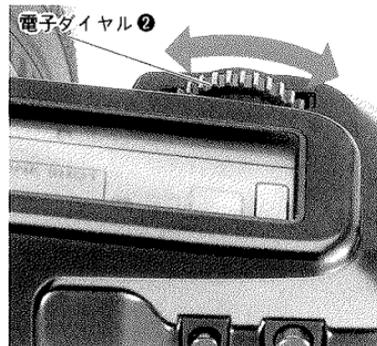
メインスイッチ 18

- 1 メインスイッチ 18 を A または (●) に合わせます。



24 電池チェックボタン

- 2 スイッチカバー 21 を開け、フィルム巻き上げモード選択ボタン 23 と電池チェックボタン 24 を同時に押します。このとき、表示パネルのフィルム枚数計にカスタム機能の番号が表示されます。



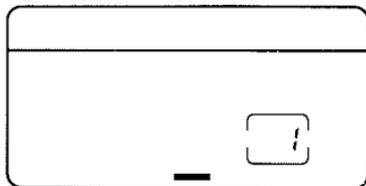
電子ダイヤル 2

- 3 電子ダイヤル 2 を回してお望みのカスタム機能の番号をセットしてください。

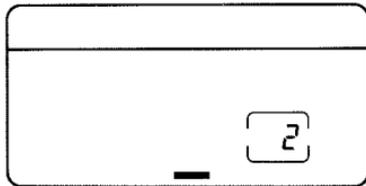
- に合わせたときは、カスタム機能4, 5, 7が作動しません。ご注意ください。



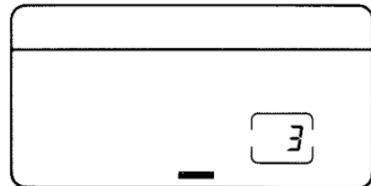
4 部分測光ボタン④を押すとカスタム機能がセットされます。表示パネルのバーマークで確認してください。通常仕様に戻すときは、再度1～4の操作を行ってバーマークの表示を消してください。



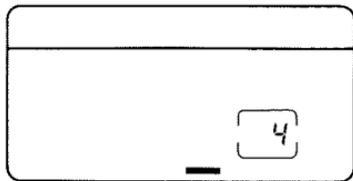
1 全フィルム撮影終了後のフィルムの自動巻き戻し機能を解除します。その際、巻き戻しはスイッチカバー内の途中巻き戻しボタンで行います。劇場やコンサート会場、あるいは野生動物などを至近距離から撮影するときのように、音が出せないときに便利です。



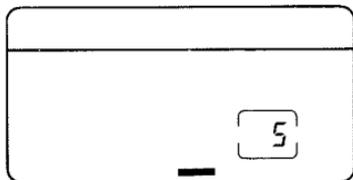
2 フィルムの自動巻き戻しの際、フィルムのリーダー部をパトローネ内に巻き込まずに残します。ご自分で現像されるときなどにご利用ください。



3 DXコード付きフィルムの自動感度セット機能を解除します。ご自分の経験で露出を補正される方に便利です。



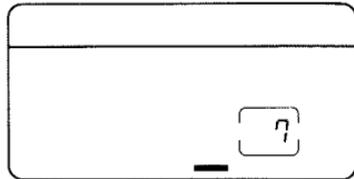
4 自動ピント合わせを部分測光ボタンで行います。構図を変えて撮影する際、ピントと露出の同時決定を避けたいときに便利です。部分測光ボタンを押してピントを合わせた後、指を離してもフォーカスはロックされます。そのままシャッターボタンを押せば評価測光撮影となります。部分測光ボタンを押したままシャッターボタンを押せば部分測光撮影となります。



5 マニュアル露出モードの際に、絞り数字を電子ダイヤルの操作のみで切り換えます。シャッタースピードの切り換えは、手動絞りセットボタン、または表示パネル照明ボタンを押しながら電子ダイヤルを回します。前者の場合、シャッタースピードの表示は \overline{SP} , $\square\square$, $[L]$ のサインの表示でかくれます。ボタンから指を離せば確認できます。後者の場合、表示パネルが照明されます。



6 メインスイッチが \square に合っている場合、手振れ警告の電子音が鳴らず合焦音のみが鳴ります。1と同様、音が出せない場所での撮影に便利です。



7 **USM** (超音波モーター) レンズ使用の際、オートフォーカスでピントを合わせた後、フォーカスマードスイッチを切り換えることなく手動ピント合わせが可能です。

★使用上のご注意

〈手入れ〉

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。常に手入れをするように心がけてください。

手入れ用具：ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロス等

①レンズとファインダー接眼部

ブロワーブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

②カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーンはブロワーブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンサービスステーションにお持ちください。

③フィルム室内

フィルムかすなどが付きやすいので、常にゴミをブロワーブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

④レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

●シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。

ください。

- 海辺で使用した後は、カメラに塩分が付着しますので特によく拭いてください。
- エアポンベタイプのブロワーの使用はおすすめできません。

〈保管〉

カメラケースを外し、電池を抜き取って、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) 車のトランクやリヤウィンドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。
- 2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。
長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキャノンサービスステーション、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

その他の注意

1. 表示パネルについて

カメラの表示パネルには液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなる場合があります。その場合は最寄りのキャノンサービスステーションで液晶の交換をご用命ください。(有料)

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60°Cぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

2. bc 表示の点滅について

電池電圧が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上でbcが点滅することがあります。以下の操作を行ってください。

1) 7 ページの説明にしたがい、電池チェックボタンで電池電圧を確認します。

もし電池電圧が低下していれば電池を交換してください。

2) 電池電圧に問題がなければ、電池を一度取り出し、再度入れてください。

3) 一度シャッターを切ります。

以上の操作を行って、bcの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかし、この操作を何度繰り返してもbcの点滅が消え

ないときはカメラの故障です。最寄りのキャノンサービスステーションにお持ちください。

3. リチウム電池について (その1)

カメラは電池(リチウム電池パック2CR5, 6V 1個)を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池をチェックしてください。

- ①電池を交換したとき
- ②長期間カメラを使用しなかったとき
- ③シャッターが切れなくなったとき
- ④寒冷地で撮影するとき
- ⑤その他、大切な写真を撮るときなど

- 電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐食の原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。
- 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- この電池は低温特性にも優れていますが、0°C以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットな

どに入れ保温しながら交互に使用することをおすすめします。

4. リチウム電池について (その2)

表示パネルの電池チェックマークが点滅または無表示となっても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。但し、電池電圧が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。また、巻き上げ/巻き戻し途中でカメラが停止してしまったときは表示パネル上でフィルム給送マーク全体が点滅して警告をします。(巻き戻しは新品電池に交換した後、途中巻き戻しボタンを押せば継続作動します)。

5. クォーツデートバックEの併用について

- 1) 写し込み機能を使用したときは、連続撮影の巻き上げのスピードが遅くなります。
- 2) 連続撮影時はフィルムカウンターの写し込みが正常に行なわれません。

6. テクニカルバックEの併用について

- 1) シャッタースピードが1/2000秒より高速になるような撮影条件にテクニカルバックEをセットしないでください。正常な作動および表示が行なわれません。
- 2) イメージセレクト機能のクローズアップ使用時における測光の自動切り換えはテクニカルバックEに表示されません。常に評価測光として表

示します。

- 3) 文字の写し込みは画面の左端より3.5mmの位置からとなります。

- 日付等の写し込み撮影をするときは、ISO 100以上のカラーフィルムを使用してください。それより低い感度、および、白黒フィルムをご使用になる場合は、最寄りのキヤノンサービスステーションへご相談ください。

7. フィルムのX線による感光防止について

フィルムはカメラに入っている、空港でのX線検査による感光は防止されません。フィルムの入ったカメラであることを検査官に伝え、X線の照射を避けてください。

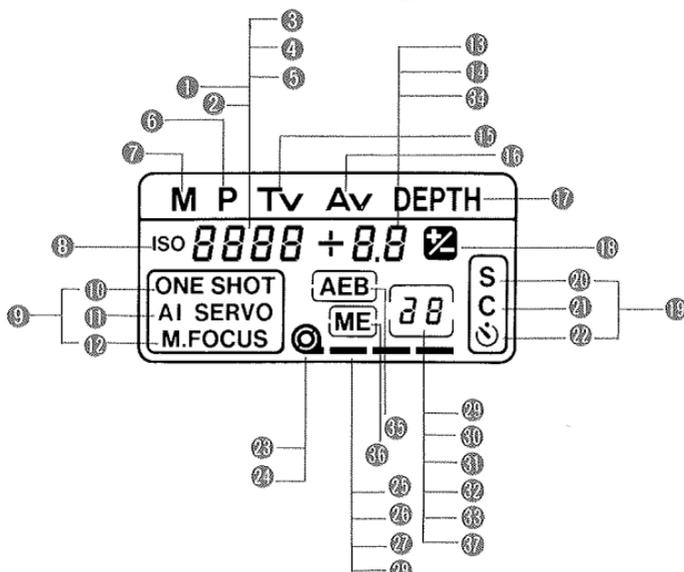
Ⅵ 「もっと詳しくEOS630を知りたい方へ」

1. イメージセレクト組み合わせ一覧表

イメージ	AFモード		フィルム巻き上げモード		測光方式	
	ワンショット	AIサーボ	シングル	コンティニュアス	評価	部分
1) フルオート	●		●		●	
2) アクションスナップ		●		●	●	
3) 風景	●		●		●	
4) スポーツ		●		●	●	
5) ポートレート	●			●	●	
6) クローズアップ	●		●			●
7) 室内パーティ (ストロボ付)	●		●		TTLプログラム	

2. パネル表示一覧

このカメラは撮影のための情報を、大型の表示パネルに表示します。下の図は情報をすべて表示したのですが、通常は必要な情報だけが表示されますので混乱する心配は全くありません。



- ①電池チェック
- ②深度優先A E表示
(dEP1, dEP2)
- ③フィルム感度数値
- ④シャッター速度
- ⑤マニュアル露出レベル
- ⑥プログラムA E
- ⑦マニュアル露出
- ⑧フィルム感度
- ⑨A Fモード

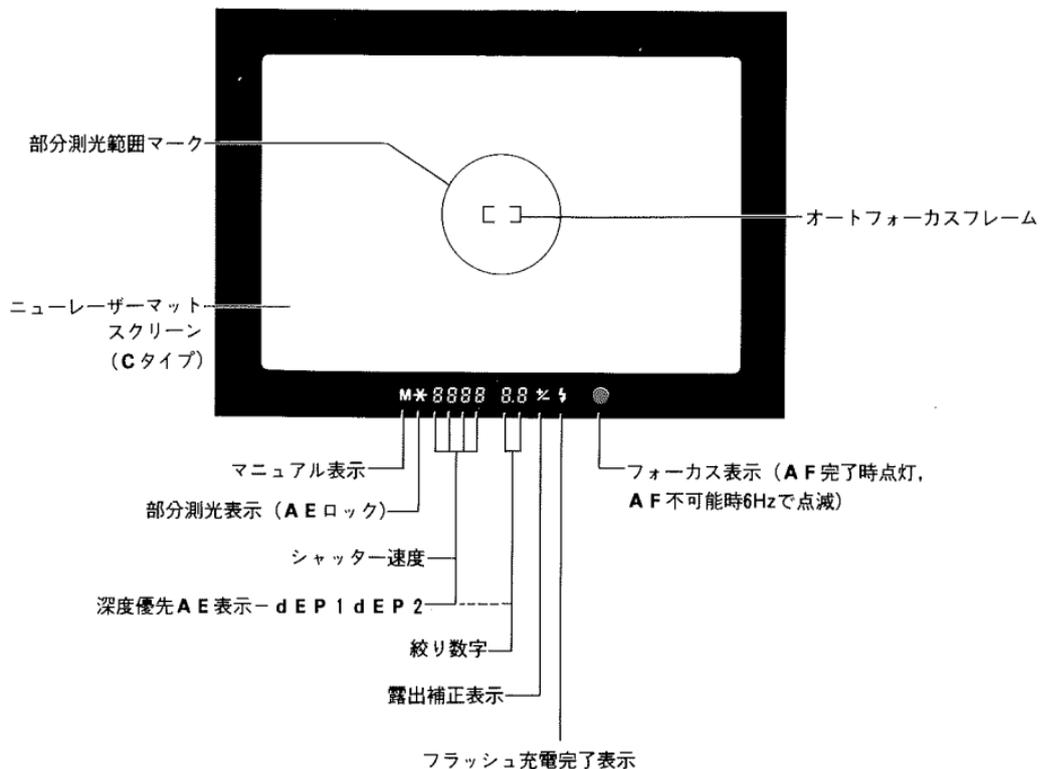
- ⑩ワンショットA F
- ⑪A IサーボA F
- ⑫手動ピント合わせ
- ⑬絞り値
- ⑭露出補正段数
- ⑮シャッター優先A E
- ⑯絞り優先A E
- ⑰深度優先A E
- ⑱露出補正表示
- ⑲フィルム巻き上げモード

- ⑳一枚撮り
- ㉑連続撮影
- ㉒セルフタイマー
- ㉓フィルム在否確認
- ㉔フィルム巻き戻し完了
- ㉕フィルム給送
(巻き上げ巻き戻し)
- ㉖フィルム巻き上げ完了
- ㉗電池チェック
- ㉘カスタム機能セット

- ㉙フィルム枚数計
- ㉚イメージセレクト機能ナンバー
- ㉛カスタム機能ナンバー
- ㉜セルフタイマー秒時
- ㉝バルブ露出時間
- ㉞オートブラケティング段数
- ㉟オートブラケティング表示
- ㊱多重露出表示
- ㊲多重露出回数

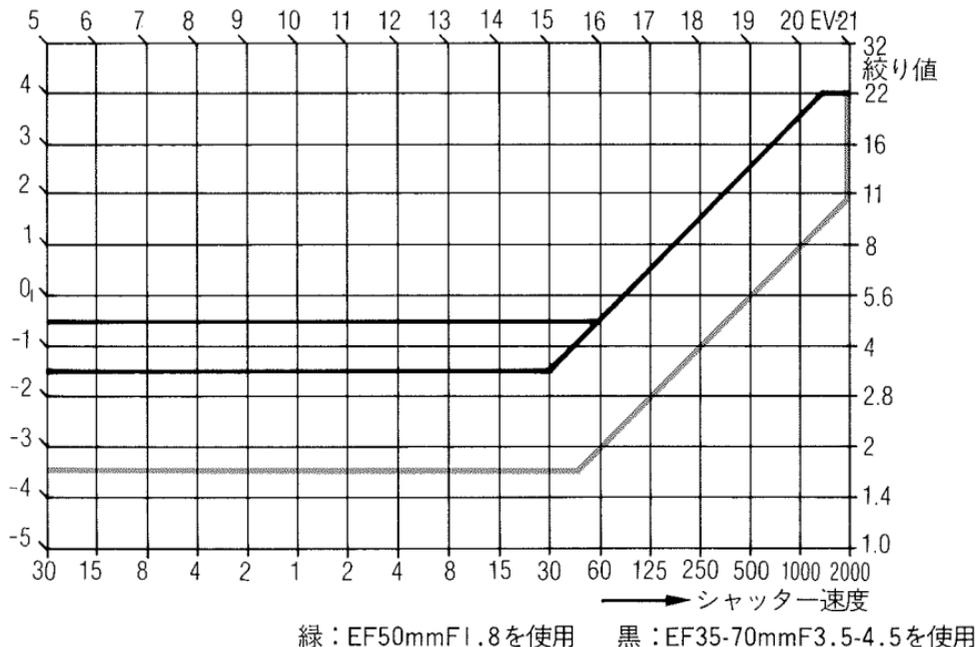
3. ファインダー内表示一覧

下の図はファインダー内情報すべてを表示したのですが、実際は必要な情報だけを視野外に表示します。



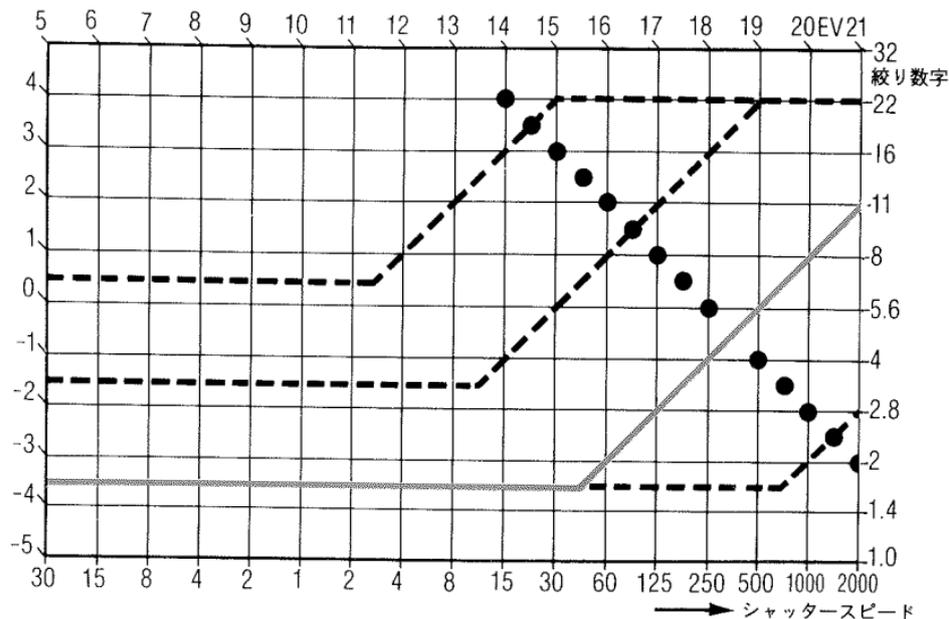
4. プログラム線図

EOSは使用レンズの特性（開放および最小絞り数字，焦点距離など）に合わせて最適なプログラム線図を選びます。自動的にセットされたシャッタースピードが使用レンズの $1/\text{焦点距離}$ マイナス0~0.5段の値になると手振れ警告音が鳴ります。これは一般に， $1/\text{焦点距離}$ のシャッタースピード・秒が手持ち撮影の限界とされているためです。従ってプログラム線図は使用するレンズによってすべて異なりますが，ここでは代表的な2本のレンズを装着したときのプログラム線図を掲載しています。



5. プログラムシフト特性

(EF50mmF1.8を使用, EV13での例)



- はプログラム線図をシフトすることで可能なシャッタースピードと絞りの組み合わせです。

6. 電池寿命（フィルム給送本数）

新品のリチウム電池パックを使用。

[EF50mmF1.8・24枚撮りフィルム使用]

温度	条件A*1	条件B*2
常温（+20°C）	75本	150本
低温（-20°C）	8本	15本
休止条件	フィルム一本撮影・巻き戻し完了ごとに電池チェックおよび休止。 休止時間： 常温20秒間、 低温3分間	

*1：AFでピントを合わせた後、6秒間のタイマー機能が切れる直前に撮影。

（タイマー機能についての詳細は38ページを参照）

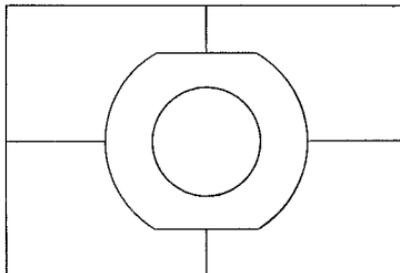
*2：AFでピントを合わせた直後に撮影。

- フィルム給送本数は使用法および使用レンズ等により変わります。
- 撮影本数はフィルムなしで空撮りしたときの回数も含まれます。
- 上記は当社試験条件による一例です。

7. 評価測光特性

オートフォーカスカメラは、一般的にファインダー中央のAFフレームでピント合わせをしますので、ファインダー中央部に被写体を置きます。また写真は被写体を中央に入れて写すのが一般的な撮り方です。

これらのことからEOSは、被写体（ある程度以上の大きさのもの）が画面中央にあるという考えのもとに評価測光を行っています。画面を中央、中間、周辺（周辺は4分割）の6つに分けて測光します。また、評価測光は被写体のおおよその状況（黒いか白いか、背景は白か黒か、光線状態は通常か逆光か）と同時に大きさもある程度判断して露出を決めています。さらに特殊な状況では、条件に合わせて露出補正も行っていくように撮れるようにしています。



8. AFモードとフィルム巻き上げモードの関係

	ONE SHOT(ワンショット)	AI SERVO(エーアイサーボ)
S:single (1枚撮り)	AF 完了まではレリーズ不可。 AF 完了と同時に AF ロック (ピント位置ロック) および評価測光状態で AE ロック (撮影前に露出の値を記憶)。	AF は被写体の動きに合わせて追従。露出はシャッターを切る瞬間に決まる。
C:continuous (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる。 (秒間最高約5コマ)*1	上と同じ条件で連続撮影となる。一コマ目のみ AF 完了前でもレリーズ可能。 AF は連続撮影中も作動。 (秒間最高約2.5コマ)*2

*1 ワンショット+コンティニューアス→実絞り・絞り込み状態維持

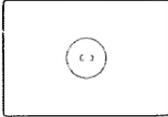
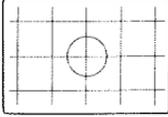
*2 AIサーボ+コンティニューアス→毎回開放絞り復帰

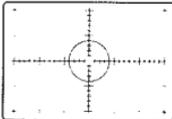
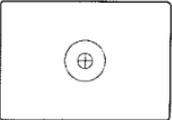
9. 交換用フォーカシングスクリーンと視度補正レンズ

交換用フォーカシングスクリーン（EOSカメラ専用）

撮影用途の違いによる便宜を図るため他に6種類の交換用フォーカシングスクリーンが用意されています。

EOS 630には**A F**フレーム付き全面レーザーマット（**C**タイプ）が標準装備されています。

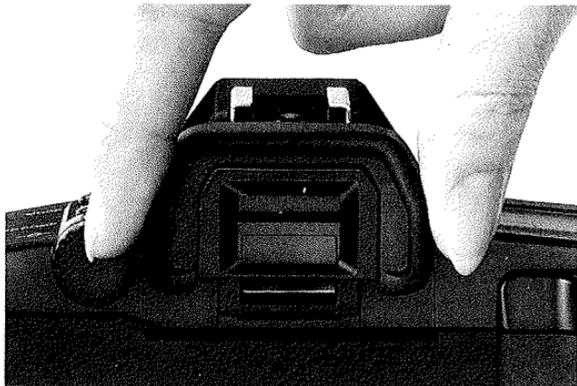
名 称		用途・特徴
A. 標準マイクロ		一般、全レンズに使用可能、F5.6より暗いレンズおよび接写ではマイクロプリズムにカゲリを生ずる。
B. ニュースプリット		一般、全レンズに使用可能。
C. A F フレーム付き全面レーザーマット		一般、全レンズに使用可能。
D. 方眼レーザーマット		一般、全レンズに使用可能。目盛線があるため建築写真の構図決定に便利、また複写にも有効。

<p>H. 目盛線入りレーザー マット</p>		<p>全レンズに使用可能. 目盛線が中央および周辺にあるため, 撮影倍率や構図決定に便利, 接写, 拡大撮影に有効.</p>
<p>I. 十字線入りレーザー マット</p>		<p>中央十字線部空中像と十字線でピント合わせ可能. 眼を左右に振ったときに, 素通し部の像が十字線に対して動かなければ合焦, 天体写真, 顕微鏡写真などに有効.</p>
<p>L. クロスプリット</p>		<p>縦横両方向の線を使用してピント合わせ可能. F5.6 より暗いレンズおよび接写はスプリット部にカゲリを生ずる.</p>

•フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられていますので, 絶対に手で触れないでください. 交換の際はフォーカシングスクリーン付属の専用チェンジャーをお使いください. なお, 実際の交換方法はフォーカシングスクリーンの使用説明書をご覧ください.

•これらのフォーカシングスクリーンはEOS 620, 630, 650専用です. 他のカメラにはご使用になれません.

視度補正レンズ



- 視度補正レンズEは、視度補正レンズ自身と着脱式のラバーフレーム（アイカップ）からできています。ラバーフレームを外せば、視度補正レンズはキャノンのAシリーズおよびTシリーズカメラにも取り付けてご使用になれます。

視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして計10種類あります。実際にカメラに取り付けてのぞいて確かめてからお選びください。

主要性能

型式：モータードライブ内蔵35mmフォーカル
プレーシャッターAF/AE一眼レフカメラ

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：EFレンズ群（開放測光にて使用）

標準レンズ：EF35-70mm F3.5-4.5, EF50mmF1.8

レンズマウント：キャノンEFマウント（完全電子制御方式）

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野率：上下左右共94%

倍率：0.8倍（50mmレンズ付き無限遠状態で）

標準視度：-1.0ジオプター（アイポイント19.3mm）

フォーカシング：交換可能、標準仕様（Cタイプ）を含
スクリーンみ計7種類

ミラー：クイックリターン式ハーフミラー

ファインダー情報：ファインダー視野外、下部に点灯表示

(1)7セグメントLCDによるデジタル数値および文字表示

①シャッター速度—制御連動範囲外時は2Hzの
点滅で警告

②絞り値—制御連動範囲外時は2Hzの点滅で警告

③マニュアル露出レベル—OP, oo, CL

④深度優先AE—dEP1, dEP2

(2)LCDマスク照明による文字表示

① × …部分測光時のAEロック表示

② M …マニュアル露出表示

③  …フラッシュ充電完了表示

④ + / - …露出補正表示

⑤ ● …フォーカス表示（AF測距不能時6Hzの点滅警告）

測光方式：受光素子に6分割SPC使用のTTL開放
測光（絞り込み測光は不可）

評価測光と部分測光の切り換え可能
（部分測光はファインダー画面の約6.5%）

撮影モード

①イメージセレクト機能（7種内蔵）

②シャッター優先AE

③絞り優先AE

④シフト機能付きインテリジェントプログラムAE

⑤深度優先AE

⑥マニュアル

⑦フラッシュAE（専用スピードライトを使用してA-TTL
およびTTLプログラムフラッシュ
AE）。

手振れ警告：インテリジェントプログラムAE、絞
り優先AE、深度優先AE時に作動。自
動的にセットされたシャッター速度が
使用レンズの1/焦点距離マイナス0
～0.5段以下となった場合に、断続電
子音で警告。（電子音はON/OFF選択
可能）。

測光範囲：EV-1（常温常湿）～20（50mmF1.4レンズ使用換算，ISO100）

使用フィルム感度：ISO 6～6400，DXコード自動対応（ISO25～5000・1/3段ずつ）

露出補正：1/2段ずつ±5段

オートブラケティング：1/2段ずつ±5段。セットされた値にしたがい、露出アンダー、カメラの露出計による適正および露出オーバーの順で3枚を連写。

多重露出：9回まで予約可能。予約回数撮影後に自動的に解除。

AF制御方式：TTL-SIR方式（TTL二次結像位相差検出方式）。

AF用センサーに増幅器一体型のBASIS(Base-Store Image Sensor)使用。測距完了時、フォーカス表示点灯と電子フォーカス音で告知（測距不能時フォーカス表示は6Hzの点滅で警告、フォーカス音はON/OFF選択可能）

①ワンショットAF — 測距完了にて停止。測距完了後にレリーズ可能

②AIサーボAF — 被写体の動きに追従。測距完了にかかわらず随時レリーズ可能。動体予測機能装備。

③マニュアル — フォーカスモードスイッチをMに

し、手動フォーカスリングを回すことにより可能。

AF測距精度範囲：EV 1～18（ISO100）

AF補助光：専用キャノンスピードライト使用時、必要に応じてフラッシュから自動的に投光（近赤外光—ピーク波長700nm）

シャッター：縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター

シャッター速度：1/2000～30秒およびバルブ、X接点は1/125秒（1/2段ずつのセット可能）

セルフタイマー：電子制御式（時限約10秒）、セルフタイマー作動表示LEDの点滅により告知
フィルム装てん：自動。フィルムセット後裏蓋を閉じると、1枚目まで自動空送りし停止（約1秒）

巻き上げ：専用小型モーターによる自動巻き上げ
①S（1コマ撮影）
②C（ワンショットAF：秒間最高約5コマ／AIサーボAF：秒間最高約2.5コマで連続撮影）

巻き戻し：フィルム終了と同時に専用小型モーターにより自動巻き戻し（24枚撮りフィルムで約6秒）

フラッシュ接点：アクセサリ一部に直結接点あり。専用キャノンスピードライト使用時は

先幕シンクロと後幕シンクロの切り換え可能。

フラッシュオート：専用キャノンスピードライトA-TTL、カメラ本体がプログラムAE状態にて、フラッシュ側の近赤外光とカメラ本体のA-TTLプログラムにより撮影距離、被写体条件に応じて最適調光絞り値を自動セット。シャッター速度は1/60～1/125の範囲内で自動セット。フィルム面反射測光によるTTL自動調光制御。自動日中シンクロ可能。

グリップ：交換可能、標準仕様を含み計3種類

①GR-30—リモートコントロール端子なし(標準装備)

②GR-20—リモートコントロール端子あり

③GR-10(グリップL)—リモートコントロール端子なし

被写界深度確認：被写界深度確認ボタンを押すことにより可能

液晶表示パネル：撮影モード、AFモード、フィルム巻き上げモード、シャッター速度、絞り値、フィルム感度、電池チェック等の表示を必要に応じて行なう機能を持つ。均一照明可能。

カスタム機能：7種内蔵、選択可能

電源：リチウム電池パック(2CR5, 6V)
1個

バッテリーチェック：電池チェックボタンにより液晶パネル上で3段階表示

裏蓋：クオーツデートバックEおよびテクニカルバックEと交換可能

大きさ：148(W)×108.3(H)×67.5(D)mm

重量：670g(ボディのみ)

都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

(データはすべて当社試験条件によります。)

④ ファインダー接眼部

モニターパネル

⑤ 表示パネル照明ボタン

⑥ 部分測光ボタン

フィルム装てん日確認
/クリアーボタン

数値セットボタン

修正位置選択ボタン

表示切り換えボタン

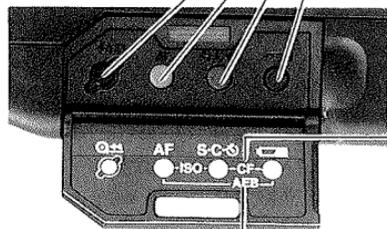
⑧ グリップねじ

① スイッチカバー

② 三脚ねじ穴



スイッチカバー内 ④ ⑦ ⑧ ⑨



④ 途中巻き戻しボタン

⑦ AFモード選択ボタン

⑧ フィルム巻き上げモード選択ボタン

⑨ 電池チェックボタン

カスタム機能セット

オートブラケットング機能セット

⑦ ONE SHOT (ワン・
ショット:止まっている
ものを撮るとき)か
SERVO (エアアイサー
ボ:動いているものを撮
るとき)を選びます。

⑧ S (Single:一枚撮り)か
C (Continuous:連続撮影、
秒間最高約5枚)を選び
ます。

緑字:一度押ししまえば、指を離しても6秒以内ならば
電子ダイヤルを回すだけの操作で機能がセットできます。

ストラップの取り付け方



ストラップ（吊りひも）の先端は、止め金の内側になるように通してください。



- ケース（別売り）は写真のようにして取り付けます。ケースのご紹介以下の3種類があります。



セミハードケースEH1-S セミハードケースEH1-L セミハードケースEH1-LL

- ① セミハードケースEH1-S-EF50mm F1.8を取り付けて収納可能。
- ② セミハードケースEH1-L-EF35-70mm F3.5-4.5を取り付けて収納可能。
- ③ セミハードケースEH1-LL-EF35-105mm F3.5-4.5を取り付けて収納可能。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。